

## 平成 18 年 4 月の地震活動及び火山活動について

### [地震活動]

伊豆半島東方沖（伊東市の川奈崎の沖合い）では 4 月 17 日頃から地震が多発し、21 日には M5.8 の地震により最大震度 4 を観測しました。また、30 日にはこの地震活動の活動域から北北西に約 15km 離れた場所で M4.5 の地震が発生し、最大震度 5 弱を観測しました。

津波を観測した地震はありませんでした。

全国で震度 1 以上が観測された地震の回数は 162 回、日本及びその周辺における M 4 以上の地震の回数は 106 回でした。

気象庁及び国土地理院などの地殻変動観測結果では、4 月 17 日頃から始まった伊豆半島東方沖の地震活動に伴い、活動域周辺で地殻変動が見られました。また、国土地理院の GPS 観測結果では、東海地域及びその周辺における、プレート境界のゆっくり滑りに起因すると思われる長期的な地殻変動は、最近では停滞しているように見えます。

震度 3 以上を観測するなどの主な地震活動の概況は別紙 1 のとおりです。また、世界の主な地震は別紙 2 のとおりです。

### [火山活動]

噴火が観測されたのは、桜島及び諏訪之瀬島でした。

桜島では、19 日に爆発的噴火があったほか、小規模な噴火等が発生しましたが、桜島の噴火活動としては比較的静穏な状態が続いています。

諏訪之瀬島の火山活動は活発な状態が続いています。爆発的噴火は観測されませんでした。4～19 日と 26 日～29 日にかけて火山性連続微動を観測し、小規模な噴火が時々発生しました。

雌阿寒岳では、ポンマチネシリ山頂の赤沼火口や北西側斜面の噴煙活動は噴火直後に比べ低下傾向がみられるものの依然活発な状態が続いています。特に山頂火口近傍及び北西側斜面では注意が必要です。

浅間山では、火山性地震および微動の発生回数ならびに火山ガスの放出量がやや多く、火山活動はやや活発な状態が続いており、山頂付近では注意が必要です。

三宅島では、二酸化硫黄を含む多量の火山ガスの放出は依然として続いており、火山活動はやや活発な状態が続いています。今後も火山ガスに対する警戒が必要です。

阿蘇山では、今期間を通じて、湯だまりの表面温度が 70 前後とやや高い状態が続き、小規模な土砂噴出も発生するなど、熱活動はやや活発な状態が続いています。火口付近では引き続き火山ガスに対する注意が必要です。

注 1：国土地理院の GPS による地殻変動観測については、国土地理院ホームページの記者発表資料「平成 18 年 3 月～平成 18 年 4 月の地殻変動について」を参照ください。

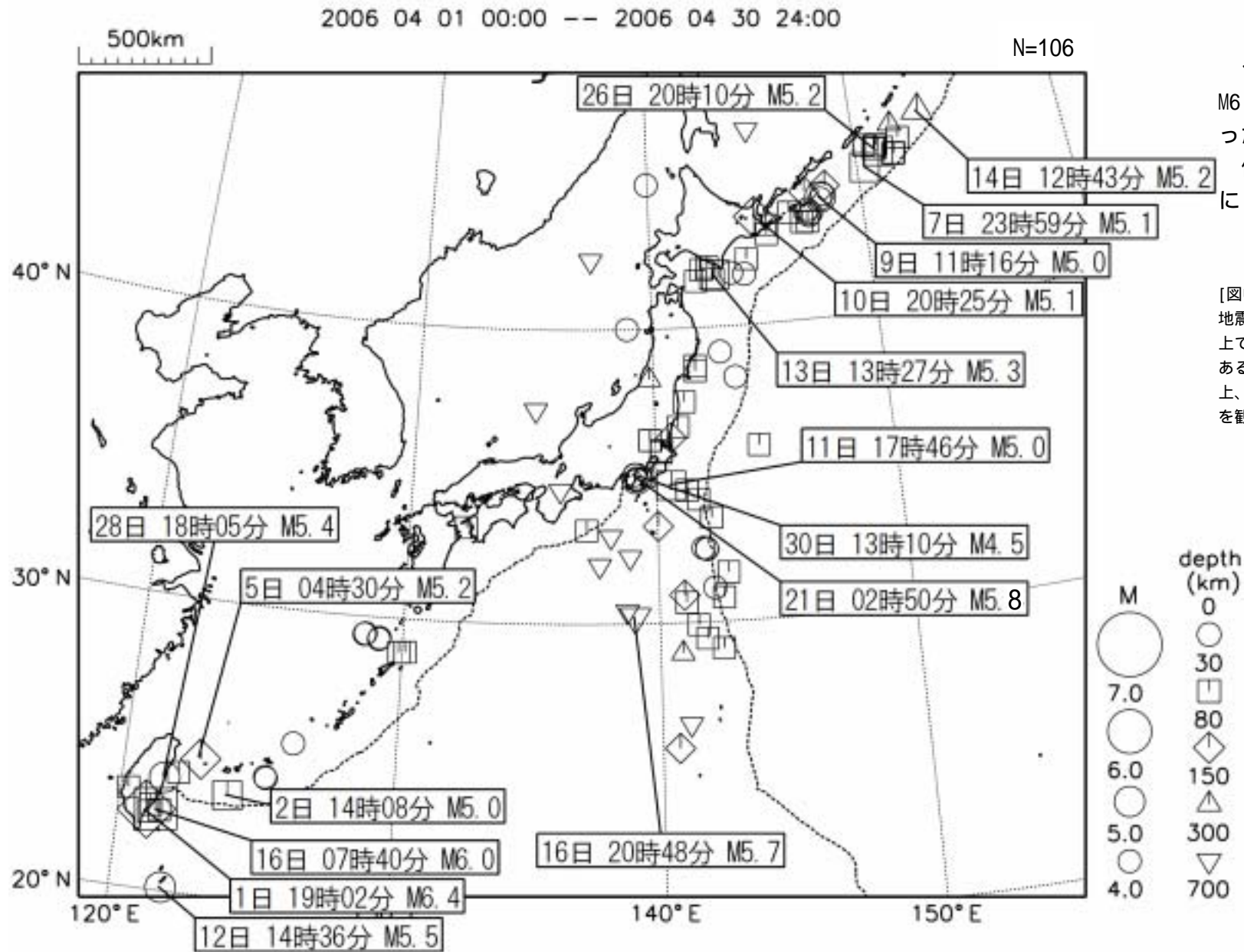
<http://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/index.html>

注 2：気象庁の地震活動資料には、防災科学技術研究所や大学等関係機関のデータも使われています。

注 3：地震活動および火山活動の詳細については、地震・火山月報(防災編) 4 月号(5 月末頃に気象庁ホームページ掲載予定)をご覧ください。

注 4：平成 18 年 5 月の地震活動及び火山活動については、平成 18 年 6 月 8 日に発表の予定です。

# 2006年4月の全国の地震活動（マグニチュード4.0以上）

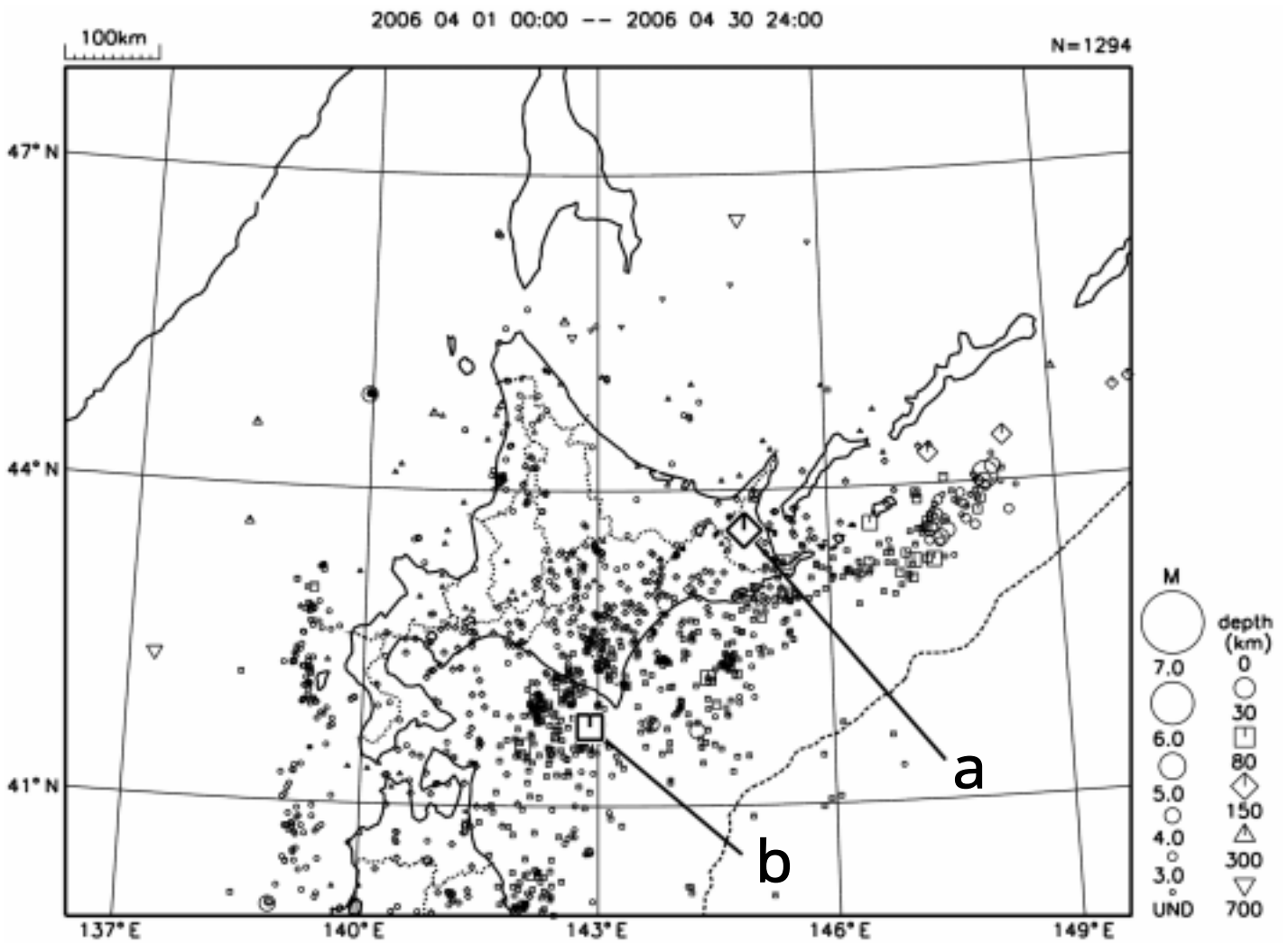


台湾付近で4月1日にM6.4、16日にM6.0の地震があった。

伊豆半島東方沖で4月30日にM4.5の地震があった。

[ 図中に日時分、マグニチュードを付した地震はM5.0以上の地震、またはM4.0以上で最大震度5弱以上を観測した地震である。また、上に表記した地震はM6.0以上、またはM4.0以上で最大震度5弱以上を観測した地震である。 ]

# 北海道地方

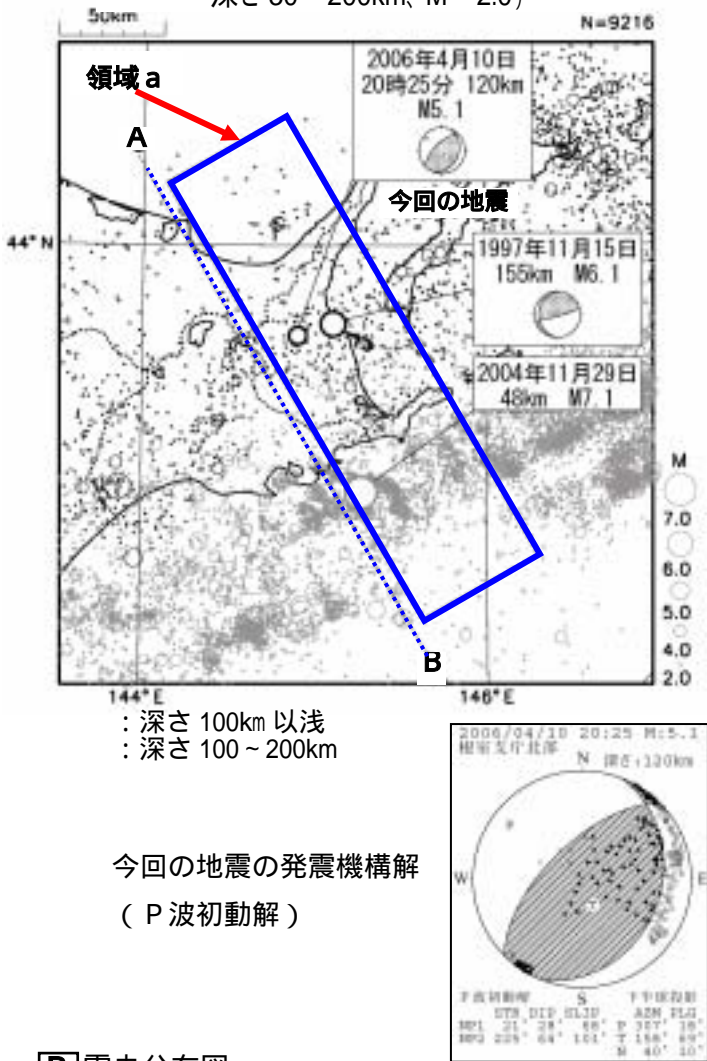


- a) 4月10日に根室支庁北部で M5.1 (最大震度3) の地震があった。  
b) 4月13日に浦河沖で M5.3 (最大震度4) の地震があった。

[ 上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。 ]

# 4月10日 根室支庁北部の地震

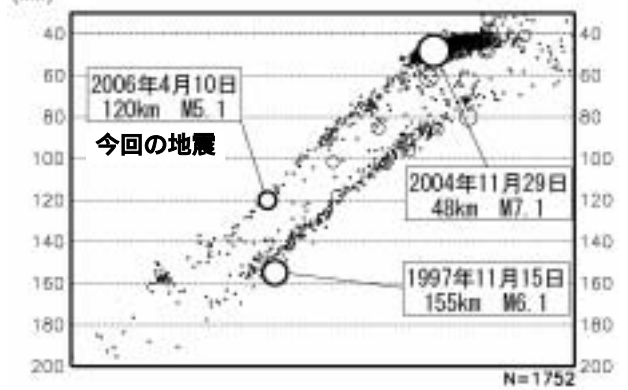
**A** 震央分布図(1997年10月1日以降、深さ30~200km、M 2.0)



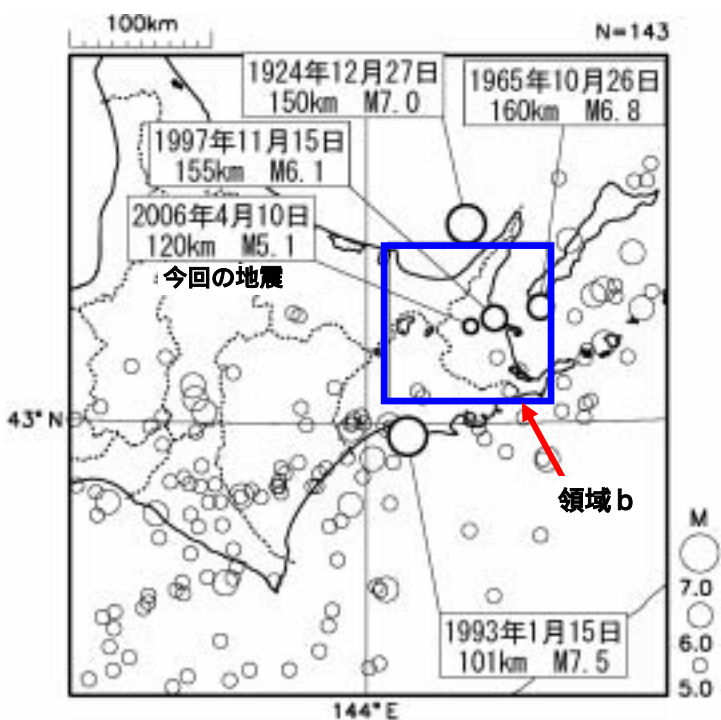
2006年4月10日20時25分に根室支庁北部の深さ120kmでM5.1の地震が発生し、最大震度3を観測した。この地震は太平洋プレート内部(二重地震面の上面)で発生している。発震機構は北西-南東方向に圧力軸を持つ型であった。余震は観測されていない。

1997年10月以降、今回の地震の震源付近でM5クラスの地震は発生していない。今回の地震の周辺では、1997年11月15日にM6.1(最大震度4)の地震が発生している。(A)

**A** 領域 a の断面図 (A - B 投影) **B**

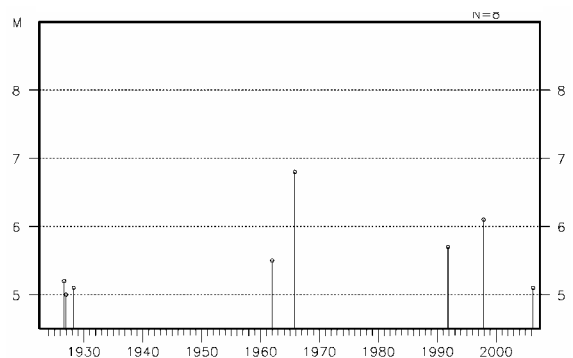


**B** 震央分布図  
(1923年8月以降、M 5.0、深さ80~180km)



1923年8月以降のM5以上の活動をみると、今回の地震の震源付近(領域b)では、M5を超える地震はこれまで8回発生しており、1965年10月26日にはM6.8の地震(最大震度4)が発生している(B)。

領域 b 内の地震活動経過図(規模別)





# 4月13日 浦河沖の地震

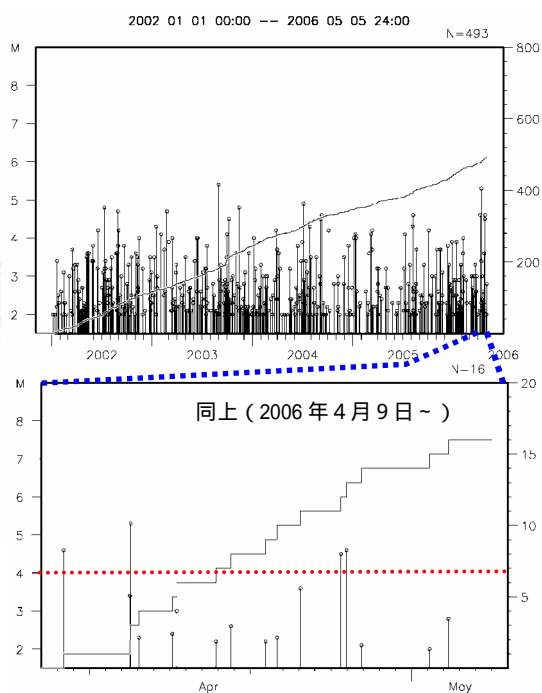
**A** 震央分布図 (2002年1月以降、M 2.0)



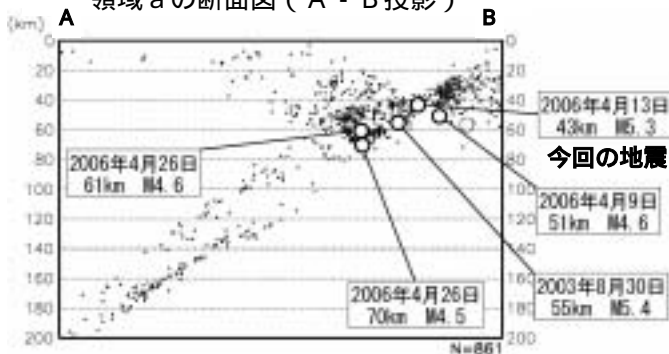
2006年4月13日13時27分に浦河沖の深さ43kmでM5.3(最大震度4)の地震が発生した。発震機構は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。この付近では4月に入りM4を超える地震が今回の地震を含め4回発生しており、9日09時37分の地震(深さ51km、M4.6)及び26日23時10分の地震(深さ61km、M4.6)では最大震度3を観測した。

今回の地震の震源付近(領域b)では2003年8月30日にM5.4(最大震度4)を観測している。(A)

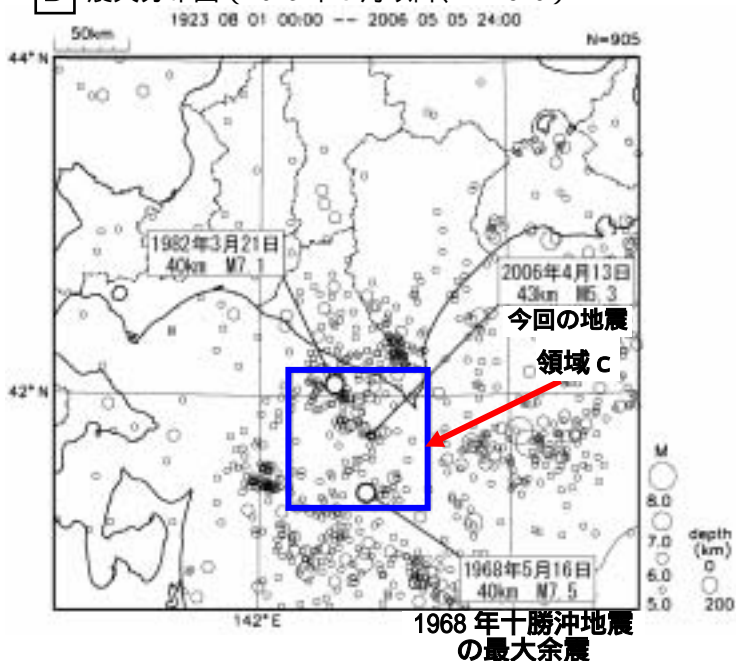
領域b内の地震活動経過図、回数積算図



領域aの断面図 (A - B 投影)

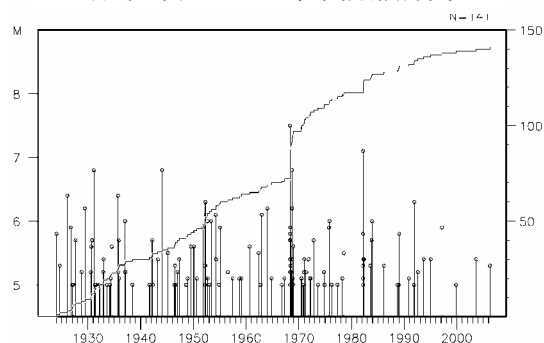


**B** 震央分布図 (1923年8月以降、M 5.0)

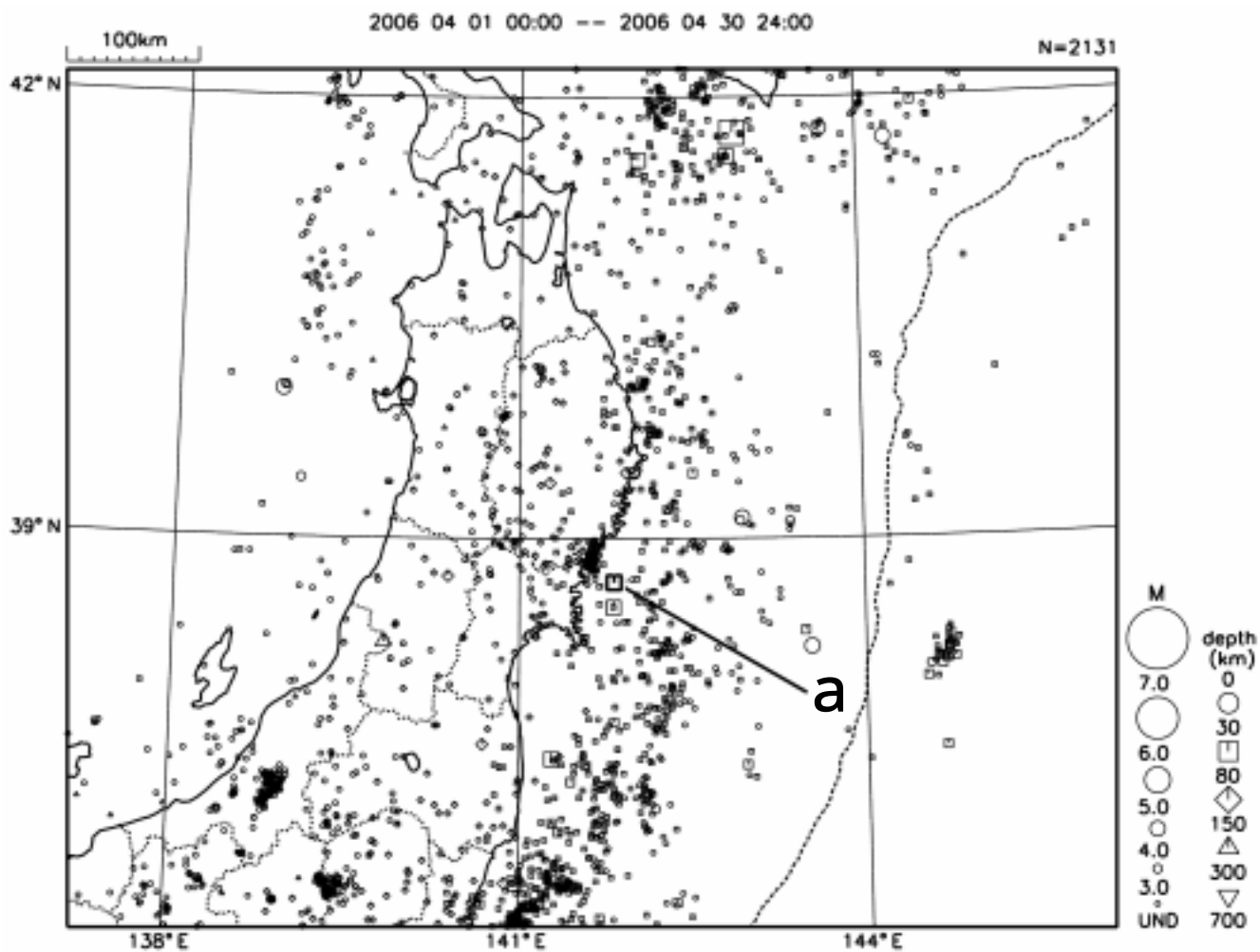


1923年8月以降のM5.0以上の活動をみると、今回の地震の震源付近(領域c)はM6クラスの活動が時折見られるところで、1968年5月16日にはM7.5(1968年十勝沖地震の最大余震)が発生している。(B)

領域c内のM - T、回数積算図



# 東北地方

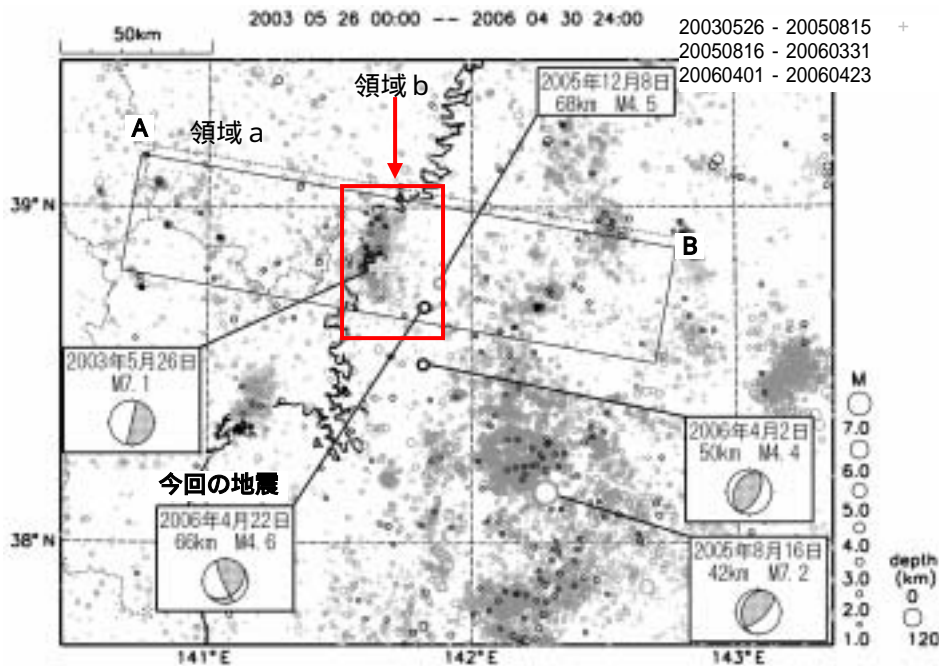


a) 4月22日に宮城県沖でM4.6(最大震度4)の地震があった。

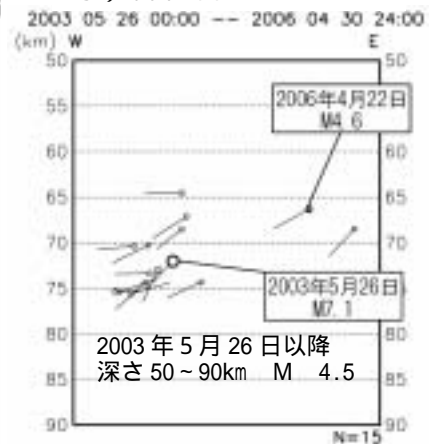
[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

# 4月22日 宮城県沖の地震

**A** 震央分布図 (2003年5月26日以降、M 1.0)



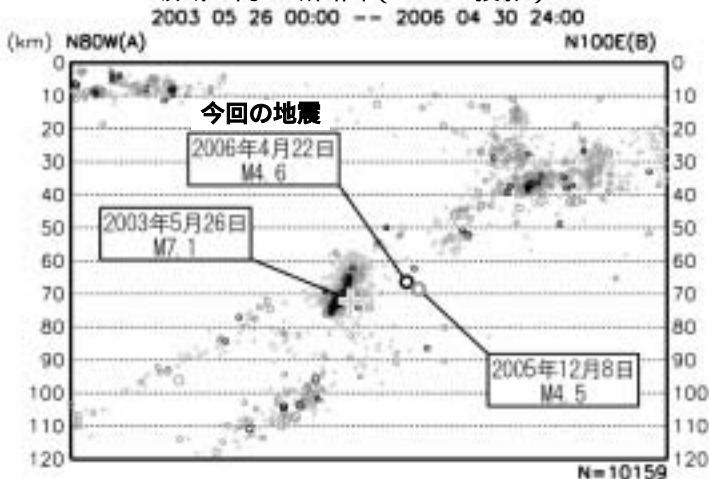
領域b内の発震機構分布図 (P軸表示) 東西断面



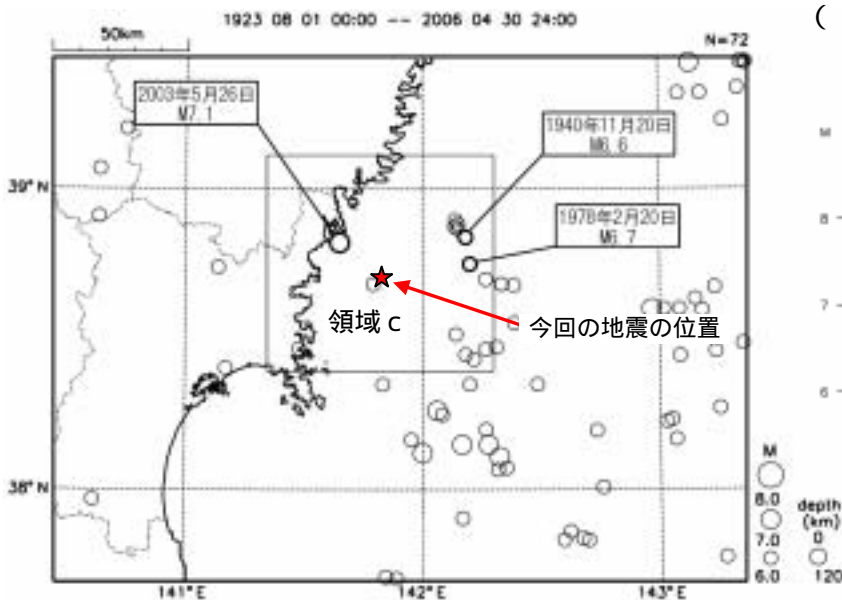
2006年4月22日23時35分に宮城県沖の深さ66kmでM4.6 (最大震度4) の地震が発生した。発震機構は太平洋プレートの沈み込む方向に圧力軸を持つ型で、太平洋プレート内部で発生した地震である。余震は観測されていない。

今回の地震の北西約20kmには、2003年5月26日に発生したM7.1の地震が位置している。今回の地震の震源付近では2005年12月8日にM4.5 (最大震度3) の地震が発生している。(A)

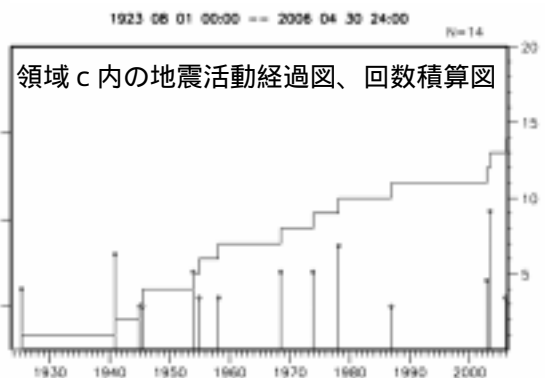
領域a内の断面図 (A - B投影)



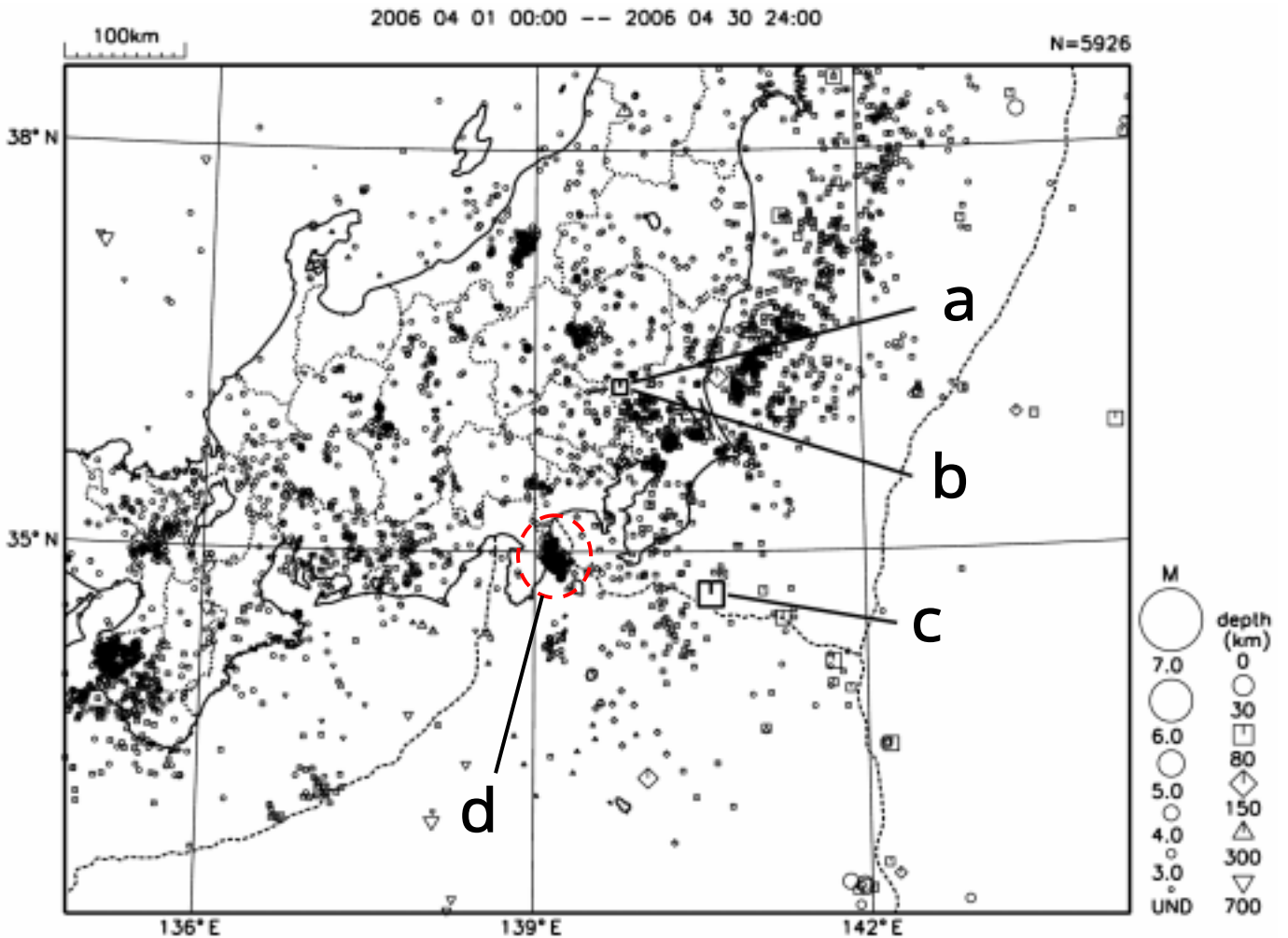
**B** 震央分布図 (1923年8月以降、M 5.0)



1923年8月以降では、今回の地震の震源付近では、M7.0を超える地震は2003年5月26日に発生したM7.1の地震のみとなっている。(B)



# 関東・中部地方



- a) 4月2日に茨城県南部で M4.3 (最大震度3) の地震があった。
- b) 4月20日に茨城県南部で M4.3 (最大震度3) の地震があった。
- c) 4月11日に房総半島南東沖で M5.0 (最大震度3) の地震があった。
- d) 4月17日から伊豆半島東方沖で地震活動があり、4月24日に M5.4 (最大震度4) の地震があった。また、活動域からやや離れたところで4月30日に M4.5 (最大震度5弱) の地震があった。

(上記期間外)

5月1日に埼玉県北部で M4.4 (最大震度3) の地震があった。

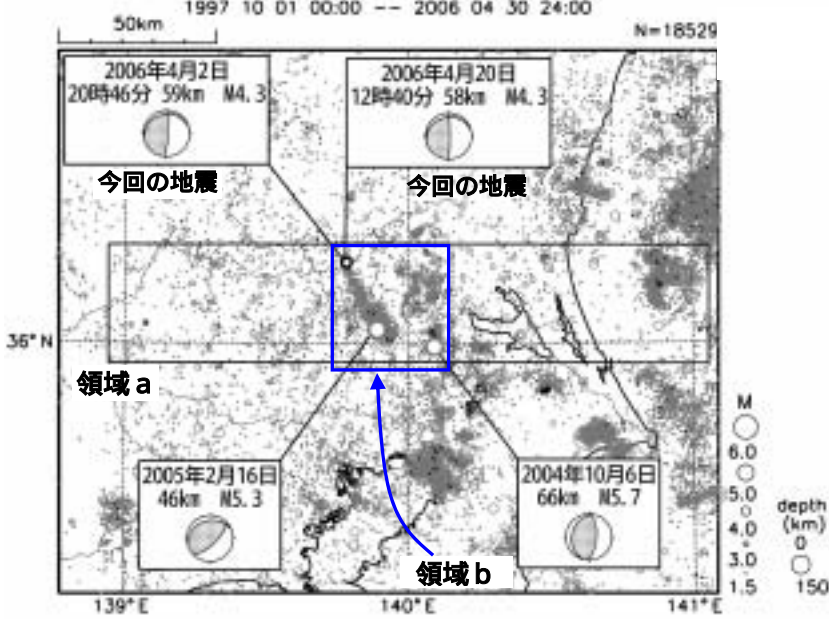
5月2日に伊豆半島東方沖で M5.0 (最大震度4) の地震があった。

[ 上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。 ]



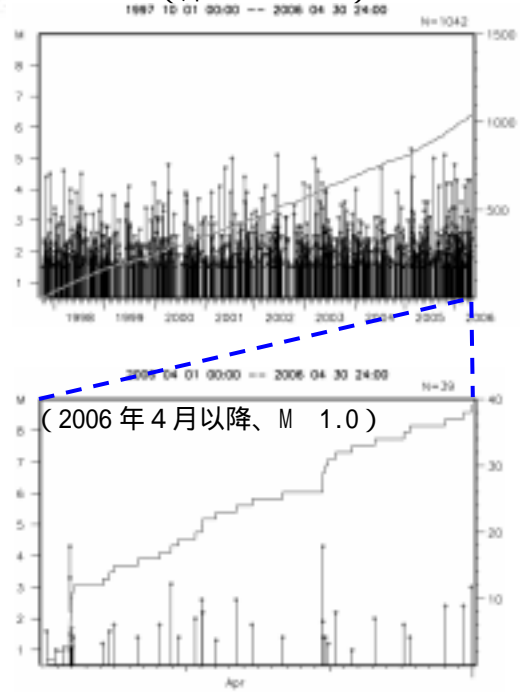
# 4月2日、4月20日 茨城県南部の地震

**A** 震央分布図 (1997年10月以降、M 1.5)

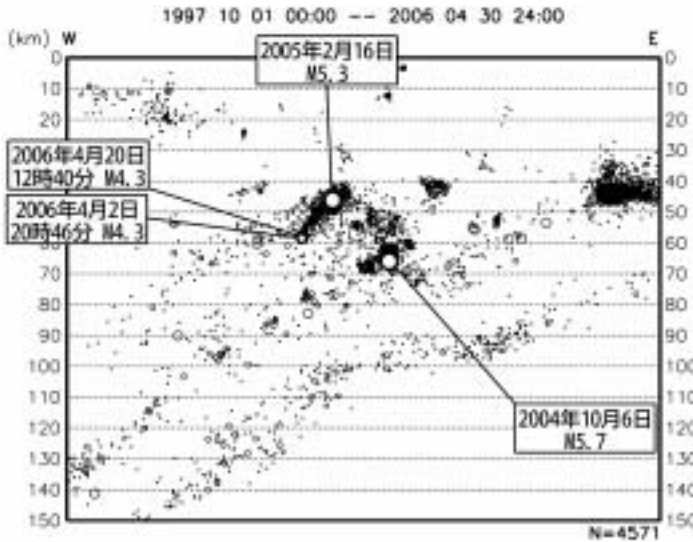


茨城県南部で2006年4月2日20時46分にM4.3(深さ59km、最大震度3)、4月20日12時40分にM4.3(深さ58km、最大震度3)の地震が発生した。発震機構はいずれも西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であり、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した地震と考えられる。今回の地震の震源付近は地震活動の活発な領域であり、2005年2月16日にM5.3(最大震度5弱)の地震が発生するなど、M4.0以上の地震が度々発生している。(A)

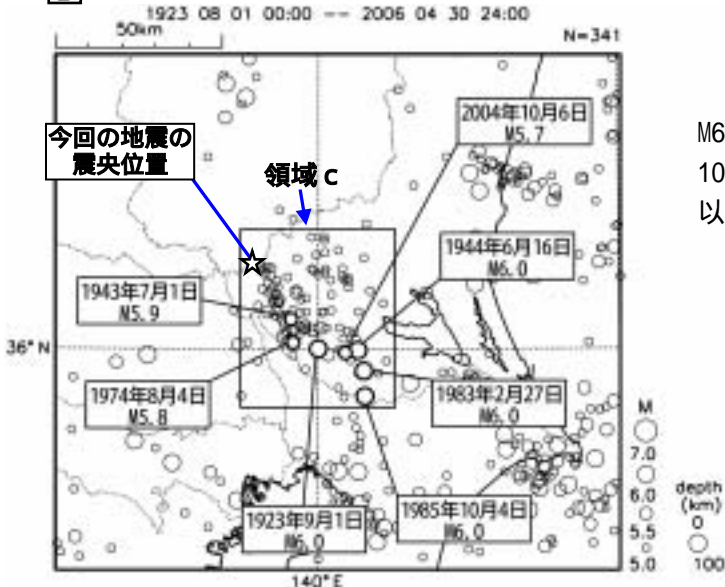
領域b内の地震活動経過図、回数積算図 (深さ40~60km)



領域a内の東西断面図

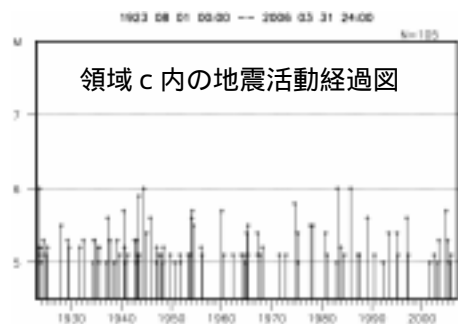


**B** 震央分布図 (1923年8月以降、M 5.0)



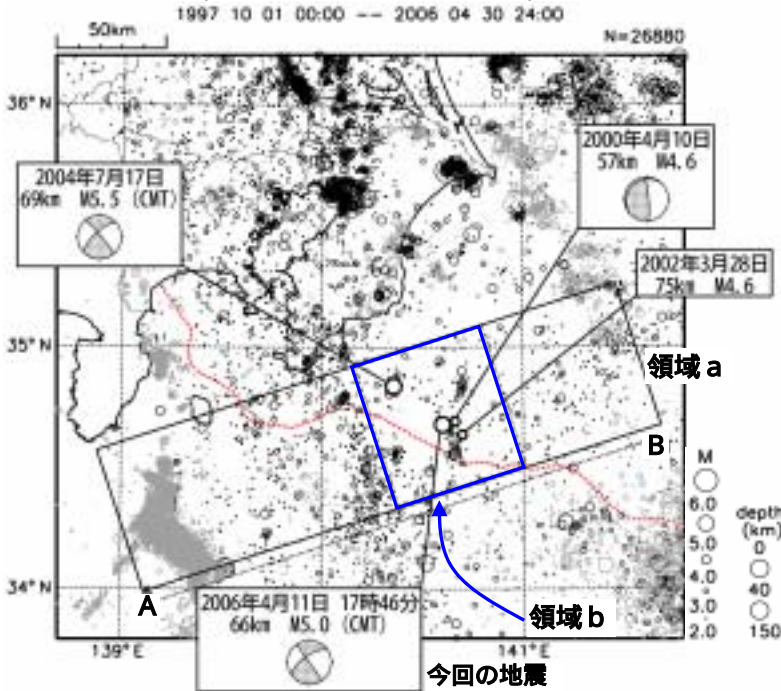
1923年8月以降、今回の地震の震央付近ではM6.0以上の地震が4回発生しているが、1985年10月4日のM6.0(最大震度5)の地震以降、M6.0以上の地震は発生していない。(B)

領域c内の地震活動経過図



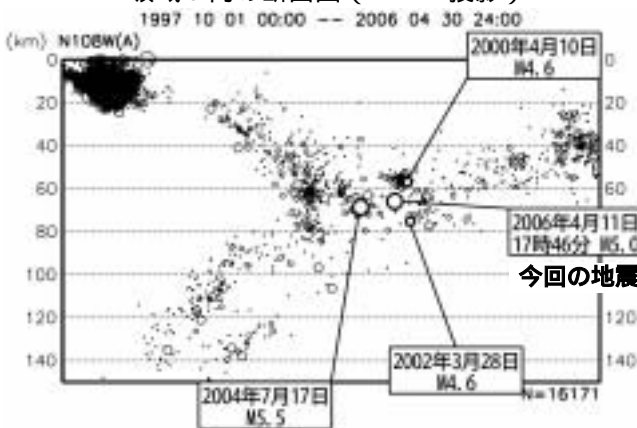
# 4月11日 房総半島南東沖の地震

**A** 震央分布図 (1997年10月以降、M 2.0)  
(深さ40km以深の地震を濃く表示)

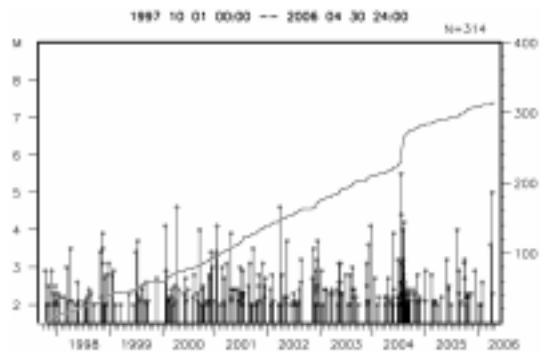


2006年4月11日17時46分に房総半島南東沖の深さ66kmでM5.0(最大震度3)の地震が発生した。発震機構(CMT解)は、東西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型で、太平洋プレートの沈み込みに伴う地震である。今回の地震の震源付近では、2004年7月17日にM5.5(最大震度4)の地震が発生している。(A)

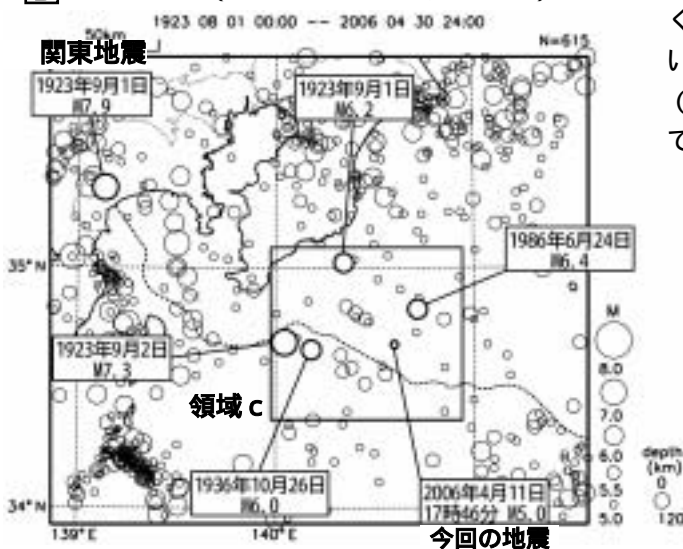
領域 a 内の断面図 (A - B 投影)



領域 b 内の地震活動経過図、回数積算図 (深さ40~90km)

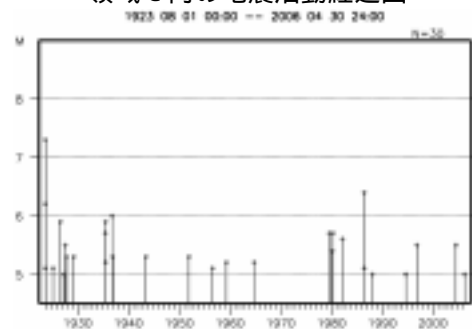


**B** 震央分布図 (1923年8月以降、M 5.0)



1923年8月以降、今回の地震の震央付近では、1923年9月1日のM7.9の地震 関東地震 直後の地震活動の活発な時期を除くと、M6.0以上の地震はあまり見られない。最近では、1986年6月24日にM6.4(最大震度4)の地震が発生しているのみである。(B)

領域 c 内の地震活動経過図





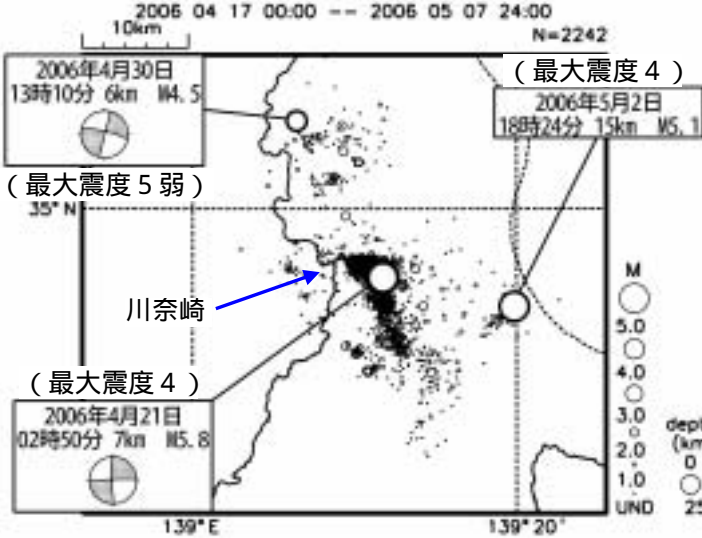
# 伊豆半島東方沖の地震活動

2006年4月17日から伊豆半島東方沖で地震活動が始まった。この間、東伊豆の体積歪計に  $4 \times 10^{-7}$  程度の縮み変化が現れた。これまでの最大の地震は21日02時50分に発生したM5.8(最大震度4)の地震である。M5.8の地震の後、それまでの活動域より南側に地震活動が拡大したほか、4月30日にM4.5(最大震度5弱)、5月2日にM5.1(最大震度4)の地震が発生するなど、活動域の周辺でやや大きめの地震が発生したが、地震活動は低調となってきている。

1983年以降の活動を見ると、伊豆半島東方沖では1980年代より度々活発な地震活動が発生していたが、1998年の活動以降、今回の地震活動までM5.0以上の地震は発生していなかった。

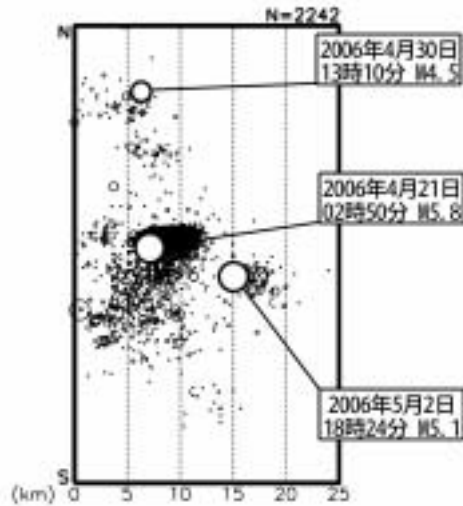
震央分布図

(2006年4月17日以降、Mすべて)

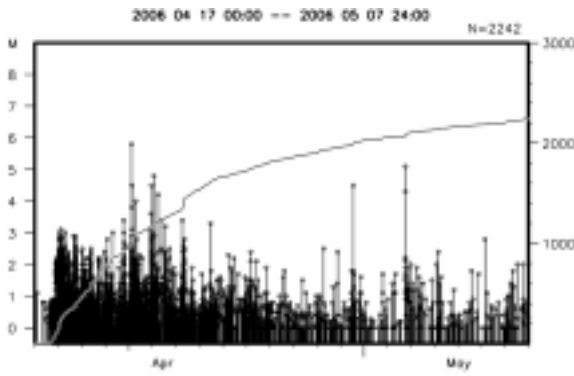


南北断面図

2006 04 17 00:00 -- 2006 05 07 24:00

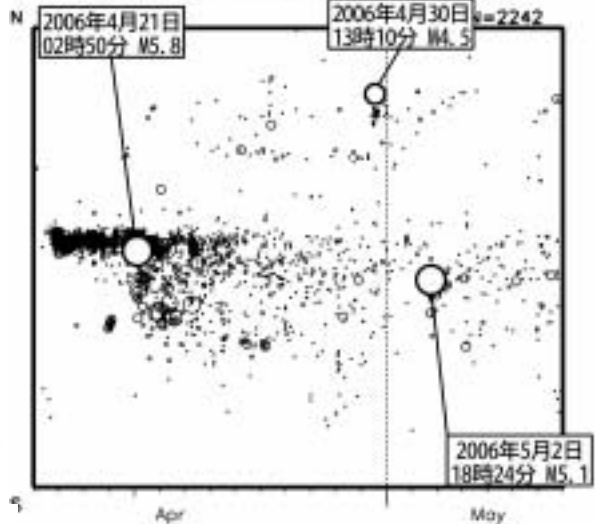


地震活動経過図、回数積算図

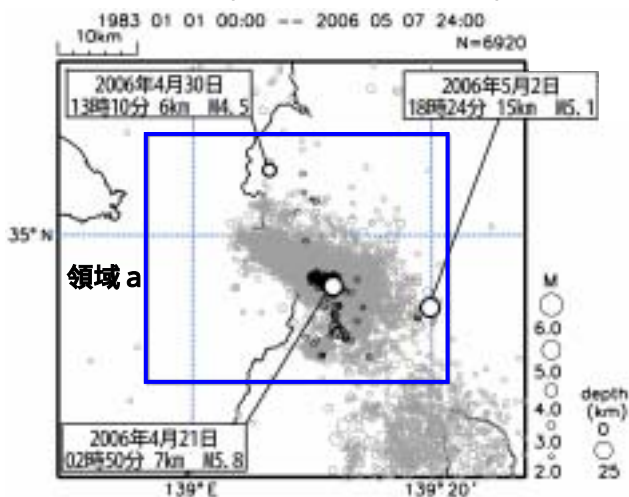


南北方向の時空間分布図

2006 04 17 00:00 -- 2006 05 07 24:00

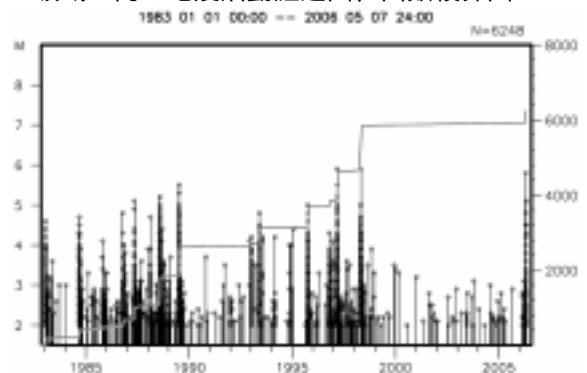


震央分布図 (1983年以降、M 2.0)



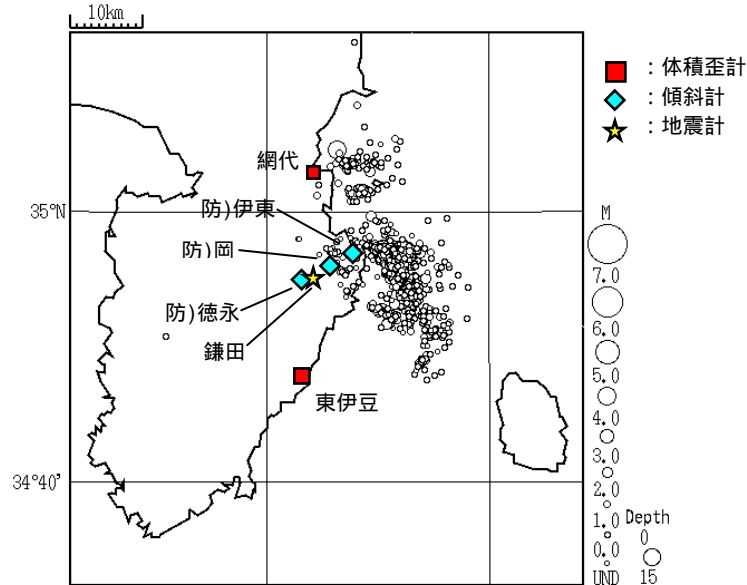
(2006年4月17日以降の活動を濃く表示)

領域 a 内の地震活動経過図、回数積算図

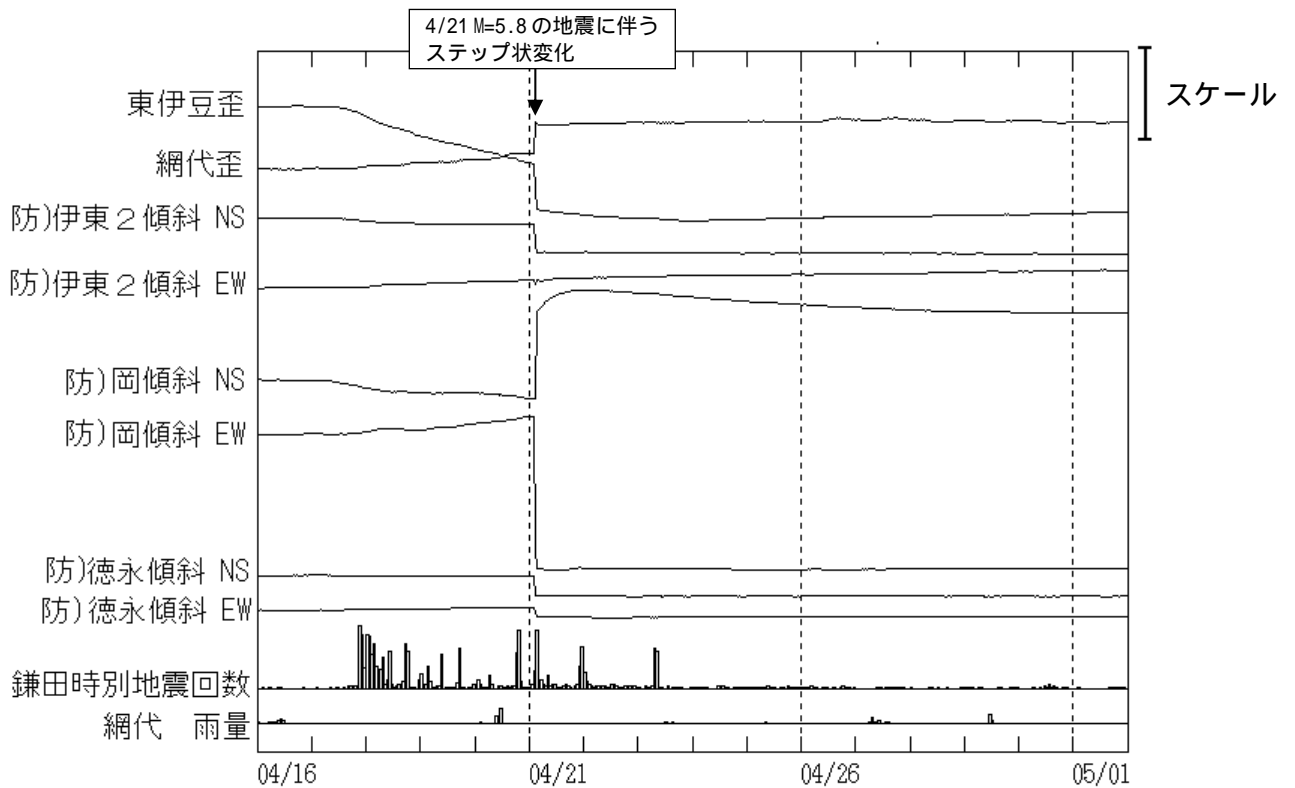


# 伊豆半島東方沖の地震活動に伴う 歪計および傾斜計の変化

歪計および傾斜計の位置と震央分布図  
(2006年4月16日～5月1日24時)



歪計および傾斜計の変化と鎌田の地震回数  
(2006年4月16日～5月1日24時)



歪計および傾斜計の変化のグラフにおいて、縦軸のスケールは、 $5.0 \times 10^{-7}$  (歪)、 $1.0 \times 10^{-5}$  (傾斜)、200回/時間 (地震回数)、30mm/時間 (雨量) を示す。

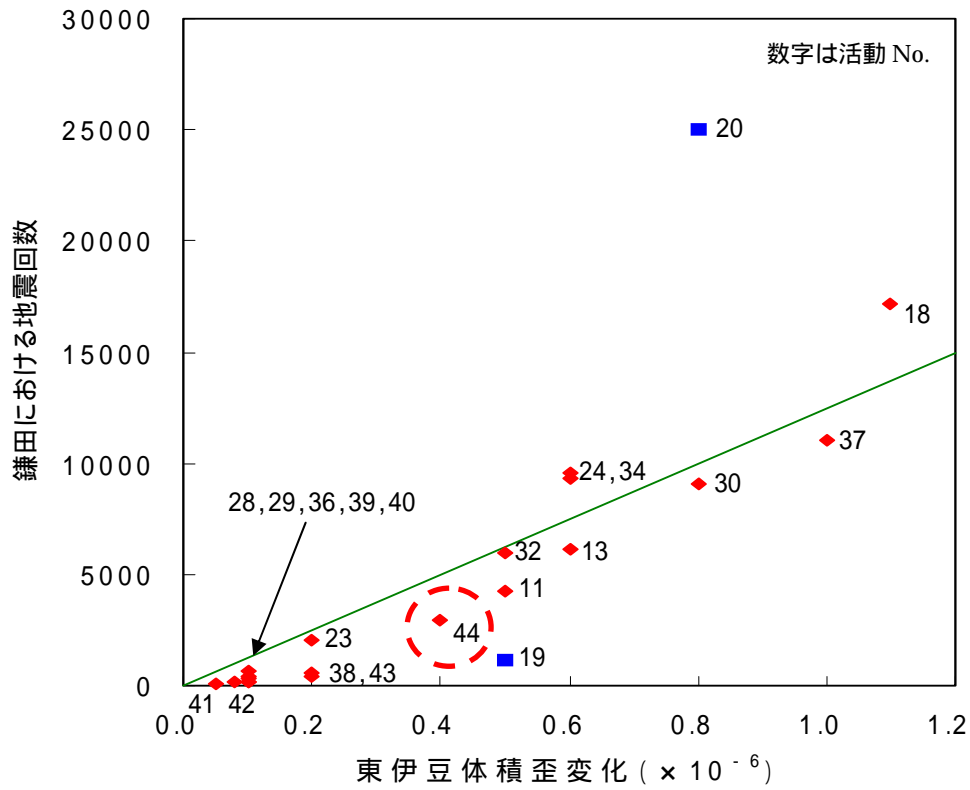
観測点名に「防)」のついている観測点は防災科学技術研究所の傾斜計を示す。鎌田地震回数は、鎌田観測点の S-P 時間が 6 秒以下で上下動速度振幅が一定振幅以上の地震の数を表す。



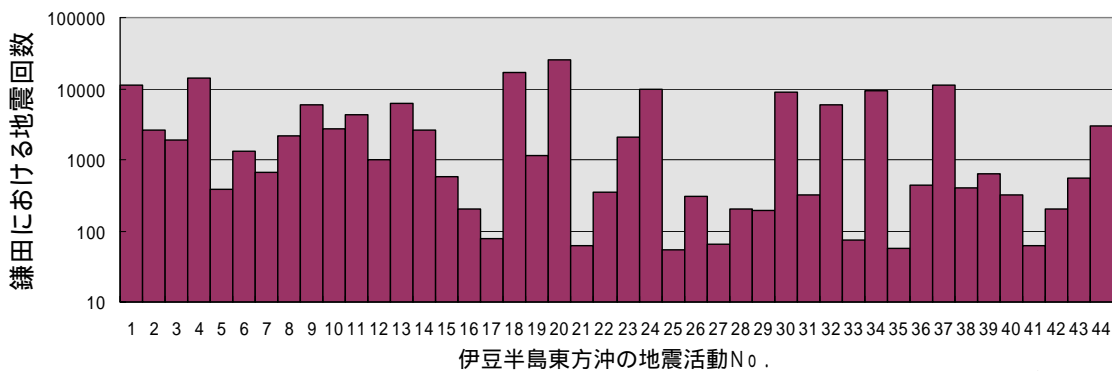
# 伊豆半島東方沖地震の主な活動における 歪変化量と地震回数について

歪変化量と地震回数の関係

(2006年5月7日現在)



活動No.	開始日	終了日	最大地震のM	鎌田地震回数	東伊豆歪計変化 $\times 10^{-6}$
11	85/10/13	85/11/12	4.1	4212	0.5
13	86/10/10	86/11/01	4.8	6125	0.6
18	88/07/26	88/09/15	5.2	17171	1.1
23	93/01/10	93/01/18	4.2	2064	0.2
24	93/05/26	93/06/15	4.8	9567	0.6
28	95/09/11	95/09/15	2.1	201	0.1
29	95/09/18	95/09/23	2.4	190	0.1
30	95/09/29	95/10/28	5.0	9078	0.8
32	96/10/15	96/11/10	4.3	6005	0.5
34	97/03/03	97/03/26	5.9	9334	0.6
36	97/06/27	97/07/15	2.0	446	0.1
37	98/04/20	98/06/02	5.9	11033	1.0
38	02/05/08	02/05/15	1.5	399	0.2
39	03/06/13	03/06/21	2.3	641	0.1
40	04/04/24	04/05/02	2.0	323	0.1
41	06/01/25	06/01/31	1.1	62	0.05
42	06/02/21	06/03/02	2.8	199	0.08
43	06/03/30	06/04/10	3.1	565	0.2
44	06/04/17		5.8	2970	0.4
以下は回帰除外データ					
19	89/05/21	89/06/03	2.3	1173	0.5
20	89/06/30	89/09/06	5.5	24989	0.8



伊豆半島東方沖の地震(2006年4月17日00時00分～ )  
最大震度別有感地震回数表

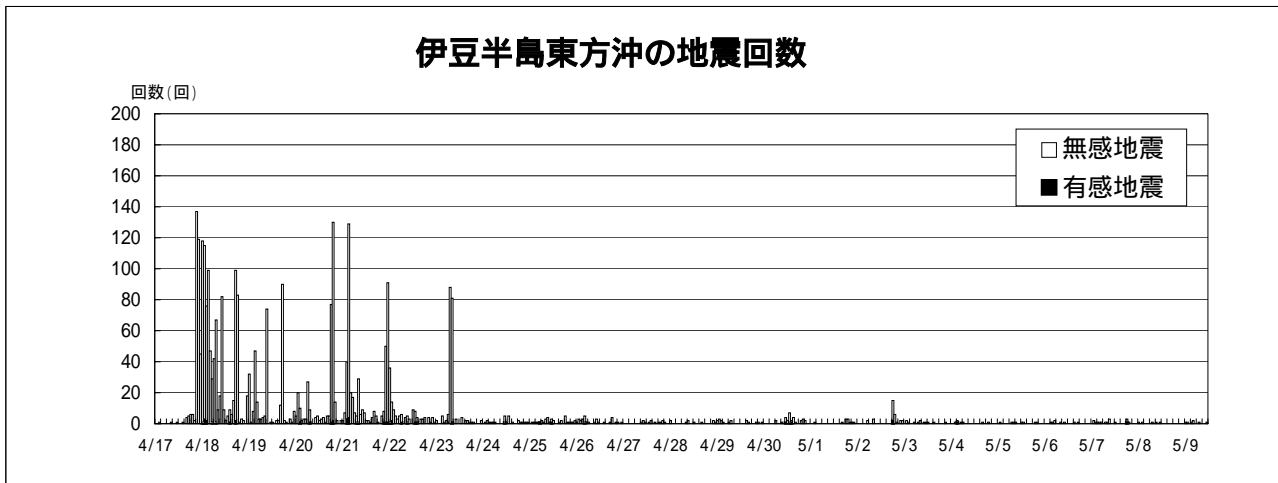
\*この資料は速報値であり、後日の調査で変更されることがあります。

期 間	最大震度別回数									有感回数		地震回数		備考
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	回数	累計	回数	累計	
04/17 00:00-24:00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	328	328	
04/18 00:00-24:00	11	0	0	0	0	0	0	0	0	11	11	954	1282	
04/19 00:00-24:00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	314	1596	
04/20 00:00-24:00	4	1	0	0	0	0	0	0	0	5	16	333	1929	
04/21 00:00-24:00	5	4	2	1	0	0	0	0	0	12	28	455	2384	
04/22 00:00-24:00	4	1	2	0	0	0	0	0	0	7	35	131	2515	
04/23 00:00-24:00	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	37	201	2716	
04/24 00:00-24:00	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	38	26	2742	
04/25 00:00-24:00	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	40	35	2777	
04/26 00:00-24:00	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	41	30	2807	
04/27 00:00-24:00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	41	13	2820	
04/28 00:00-24:00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	41	10	2830	
04/29 00:00-24:00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	41	17	2847	
04/30 00:00-24:00	2	0	0	0	1	0	0	0	0	3	44	30	2877	
05/01 00:00-24:00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	44	11	2888	
05/02 00:00-24:00	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	46	31	2919	
05/03 00:00-24:00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	46	12	2931	
05/04 00:00-24:00	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	47	7	2938	
05/05 00:00-24:00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	47	8	2946	
05/06 00:00-24:00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	47	8	2954	
05/07 00:00-24:00	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	48	16	2970	
05/08 00:00-24:00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	48	5	2975	

H18.05/09

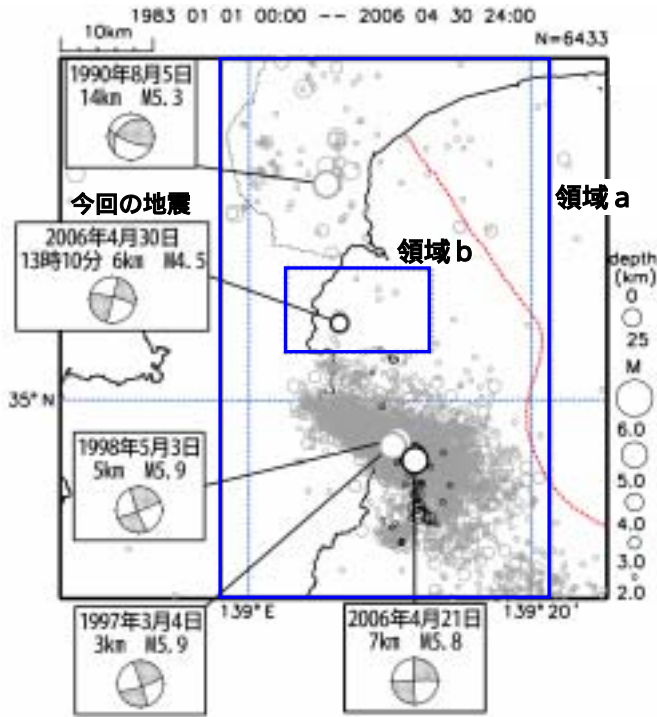
時間帯	最大震度別回数									有感回数		地震回数		備考
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	回数	累計	回数	累計	
00:00 - 01:00										0	48	1	2976	
01:00 - 02:00										0	48	1	2977	
02:00 - 03:00										0	48	0	2977	
03:00 - 04:00										0	48	1	2978	
04:00 - 05:00										0	48	2	2980	
05:00 - 06:00										0	48	0	2980	
06:00 - 07:00										0	48	0	2980	
07:00 - 08:00										0	48	1	2981	
08:00 - 09:00										0	48	0	2981	
09:00 - 10:00										0	48	0	2981	
10:00 - 11:00										0	48	0	2981	
11:00 - 12:00										0	48	1	2982	
日累計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	7	-	
総計	34	7	4	2	1	0	0	0	0	-	48	-	2982	

\* 精査の結果、4/26、4/30の日地震回数を 26 30回、24 30回に修正しました。

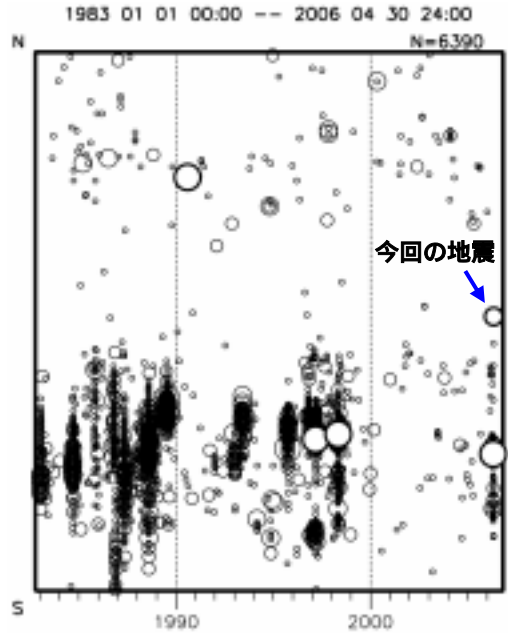


# 4月30日 伊豆半島東方沖の地震

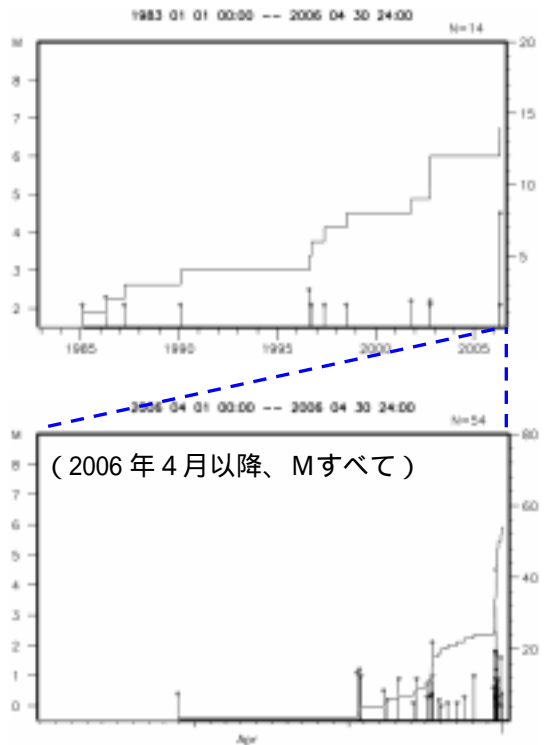
**A** 震央分布図 (1983年以降、M 2.0)



領域a内の時空間分布図 (南北方向)



領域b内の地震回数経過図、回数積算図

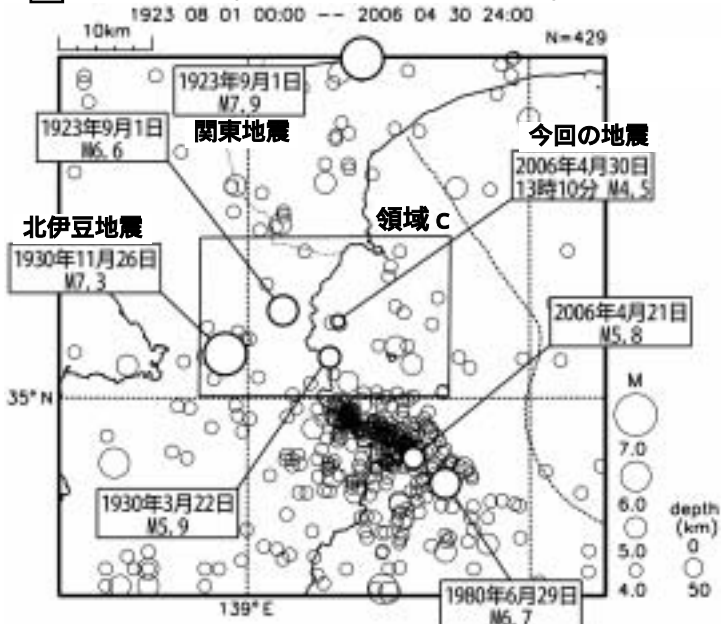


2006年4月30日13時10分に伊豆半島東方沖の深さ6kmでM4.5(最大震度5弱)の地震が発生した。発震機構は、北北西-南南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型であった。

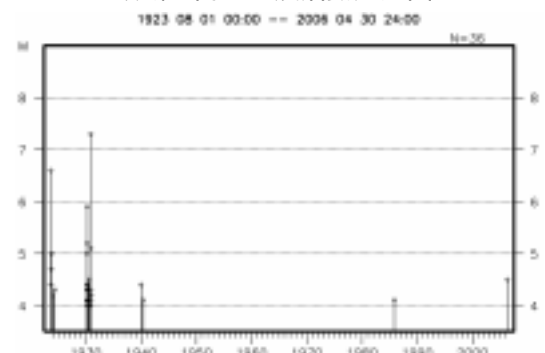
伊豆半島東方沖では、2006年4月17日より地震が多発し、4月21日にはM5.8(最大震度4)の地震が発生したが、今回の地震はそれらの活動域から北北西に約15km離れた場所で発生した。(A)

1923年8月以降、今回の地震の震央付近では、関東地震直後の地震活動が活発であった時期や、1930年北伊豆地震の前後の活動を除くと、M4.0以上の地震はほとんど発生していない。(B)

**B** 震央分布図 (1923年8月以降、M 4.0)

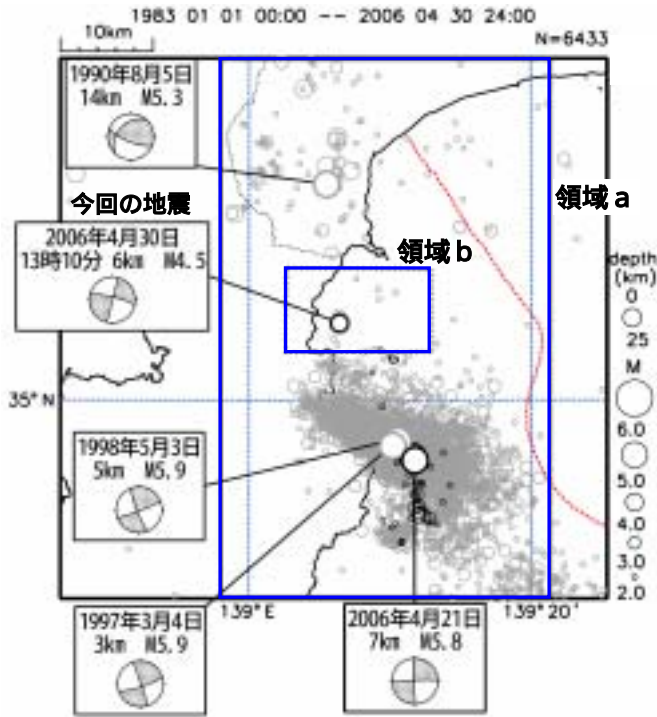


領域c内の地震活動経過図



# 4月30日 伊豆半島東方沖の地震

**A** 震央分布図 (1983年以降、M 2.0)



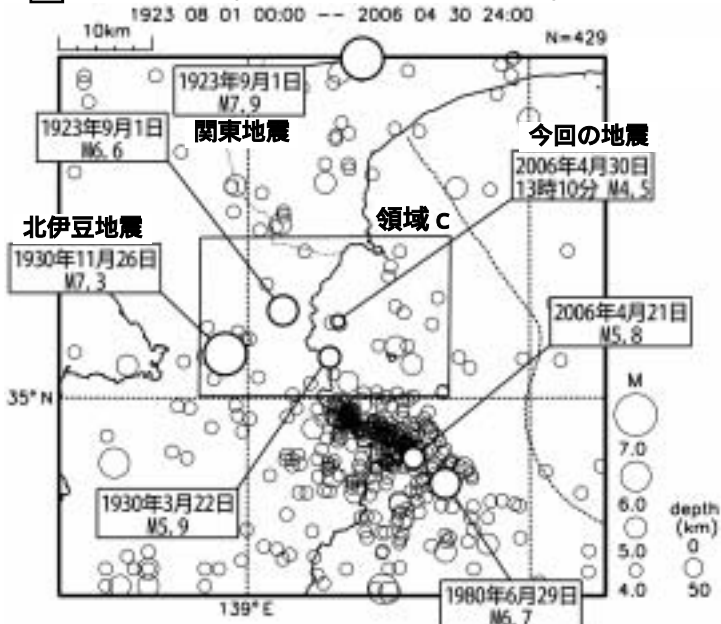
(2006年4月17日以降の地震を濃く表示)

2006年4月30日13時10分に伊豆半島東方沖の深さ6kmでM4.5(最大震度5弱)の地震が発生した。発震機構は、北北西-南南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型であった。

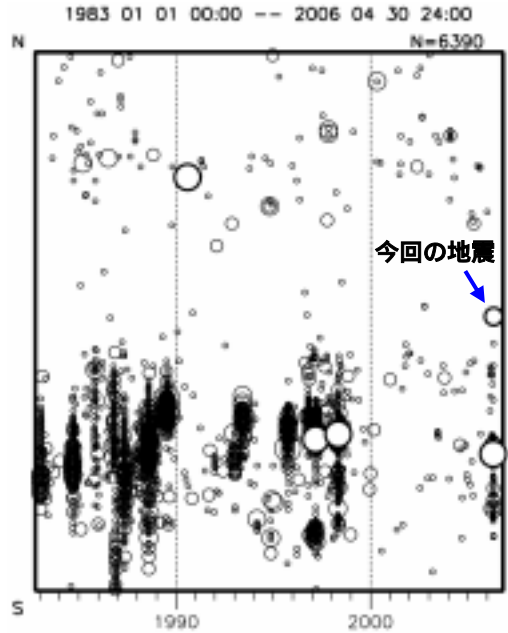
伊豆半島東方沖では、2006年4月17日より地震が多発し、4月21日にはM5.8(最大震度4)の地震が発生したが、今回の地震はそれらの活動域から北北西に約15km離れた場所で発生した。(A)

1923年8月以降、今回の地震の震央付近では、関東地震直後の地震活動が活発であった時期や、1930年北伊豆地震の前後の活動を除くと、M4.0以上の地震はほとんど発生していない。(B)

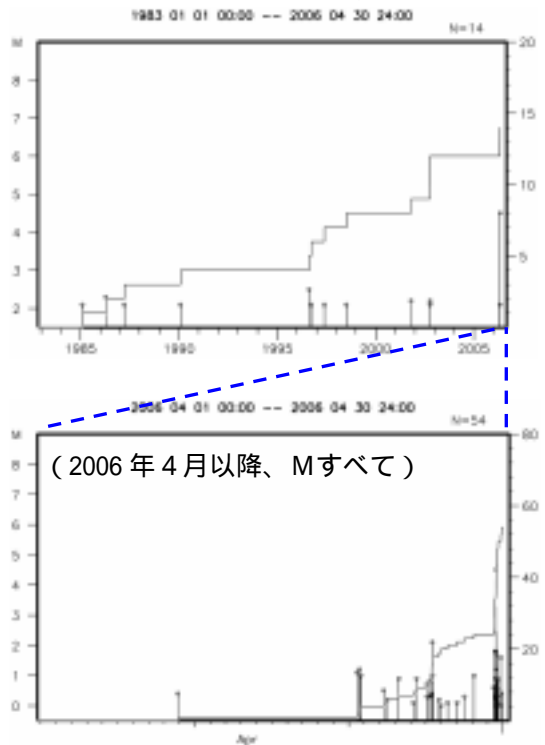
**B** 震央分布図 (1923年8月以降、M 4.0)



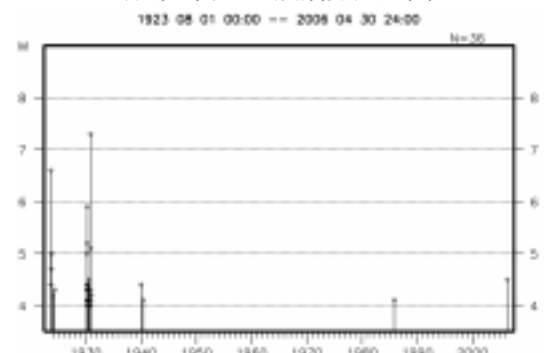
領域a内の時空間分布図(南北方向)



領域b内の地震回数経過図、回数積算図

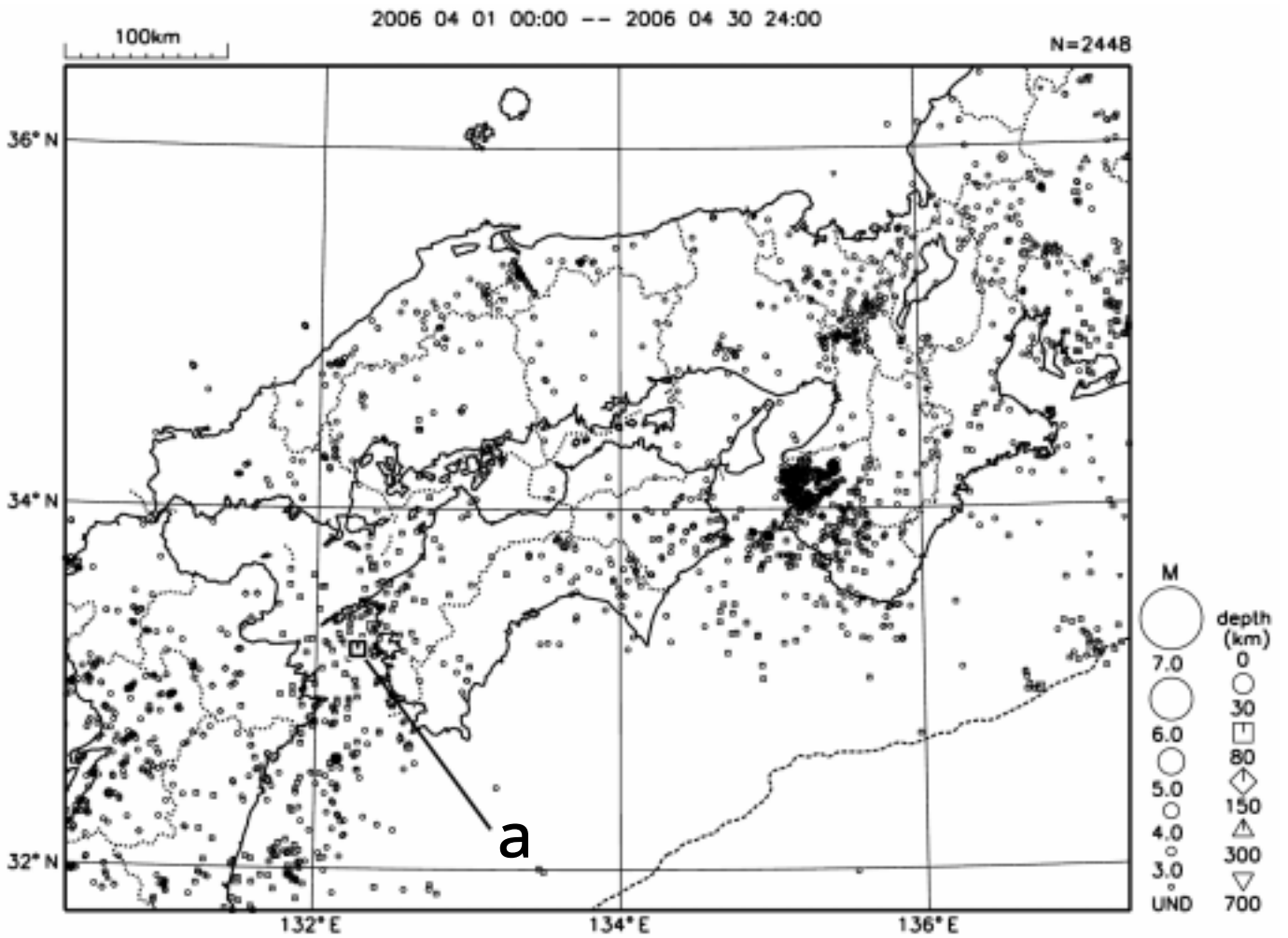


領域c内の地震活動経過図





# 近畿・中国・四国地方



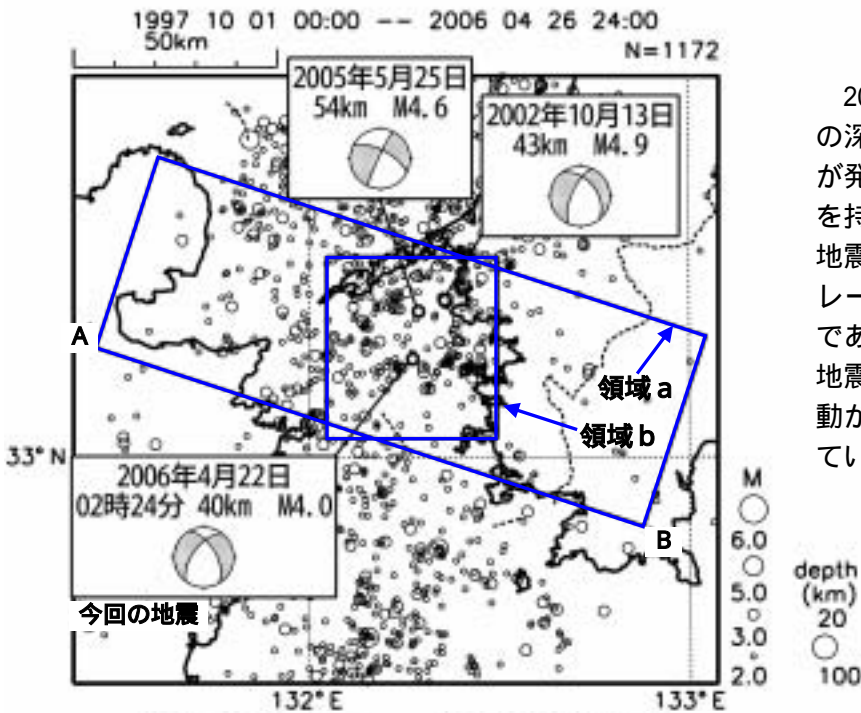
a) 4月22日に豊後水道でM4.0(最大震度3)の地震があった。

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

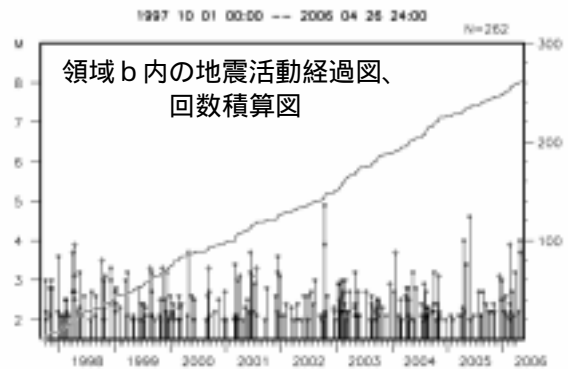
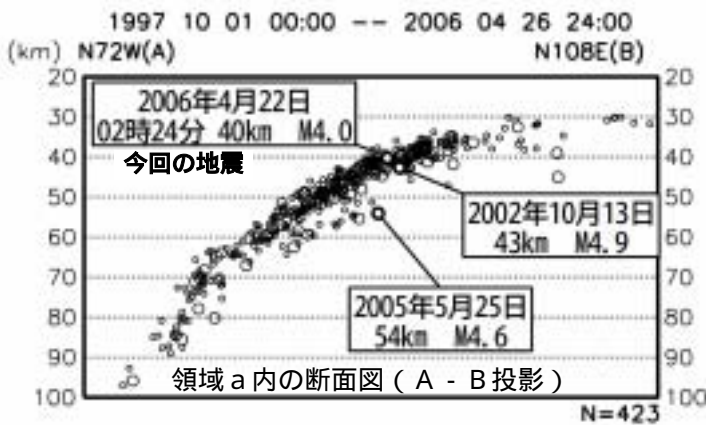
# 4月22日 豊後水道の地震

**A**

震央分布図 (1997年10月以降、M 2.0)

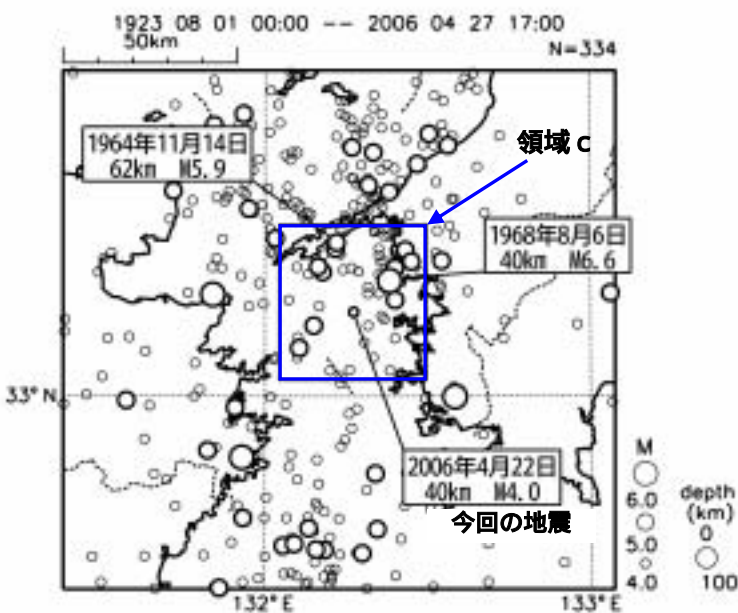


2006年4月22日02時24分に豊後水道の深さ40kmでM4.0(最大震度3)の地震が発生した。発震機構は東西方向に張力軸を持つ型で、フィリピン海プレート内部の地震である。張力軸の方向はこの付近のプレート内部の地震によく見られるタイプである。余震は観測されていない。今回の地震の震源付近では、ほぼ定期的に地震活動があり、M4~5程度の地震が時々発生している。(A)

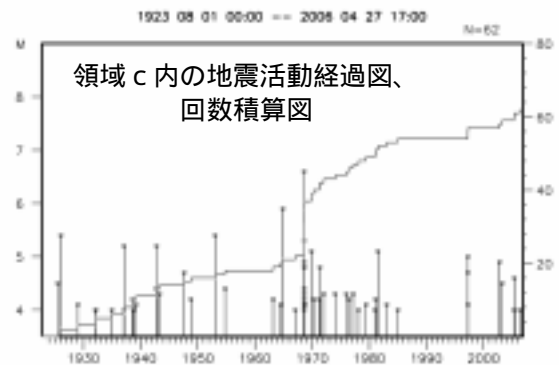


**B**

震央分布図 (1923年8月以降、M 4.0)

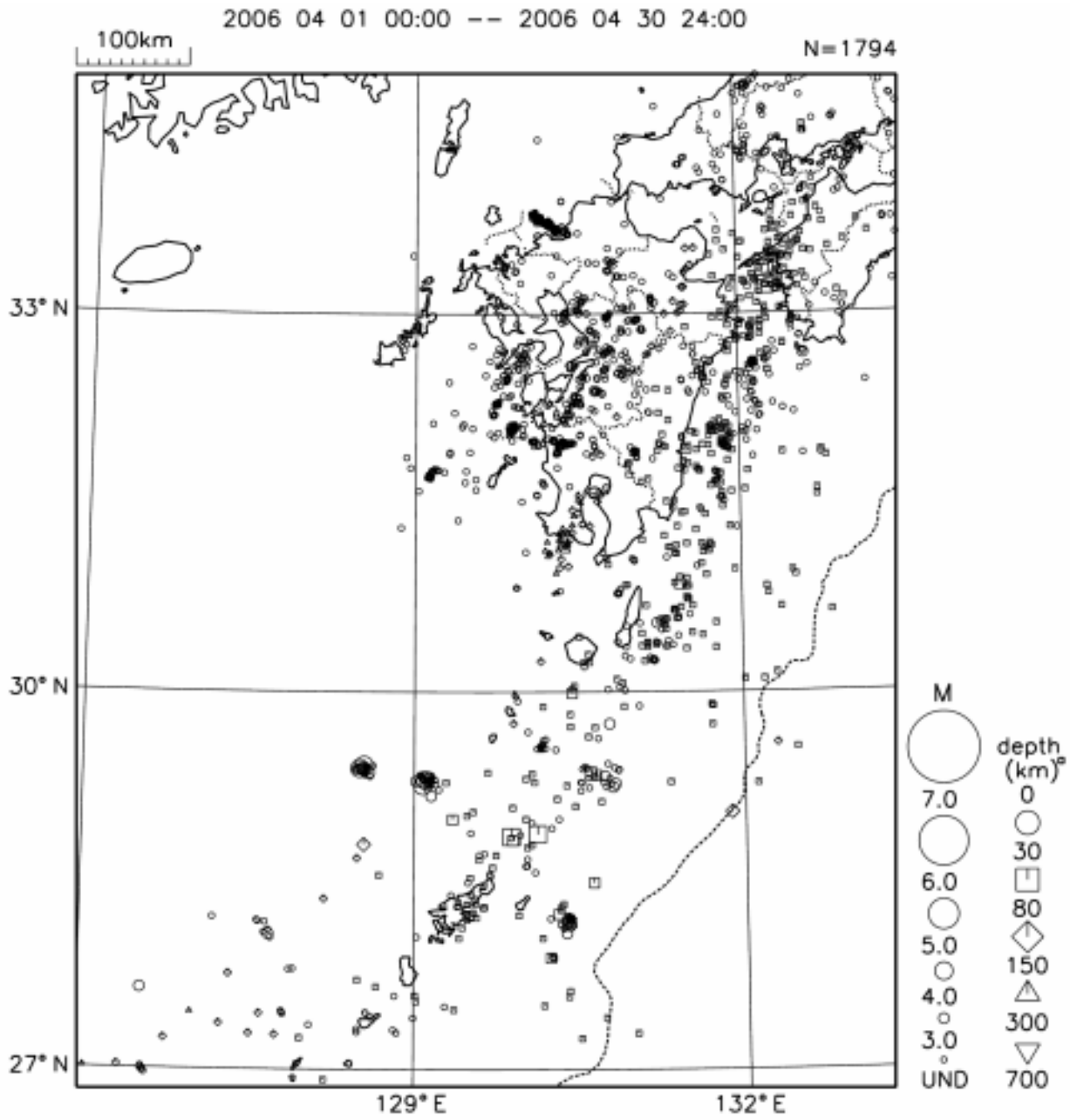


1923年8月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近では、おおよそ10年に1回程度の割合でM5.0以上の地震が発生している。最大は1968年8月6日のM6.6の地震である。(B)



M5.0以上を濃くプロットしてある

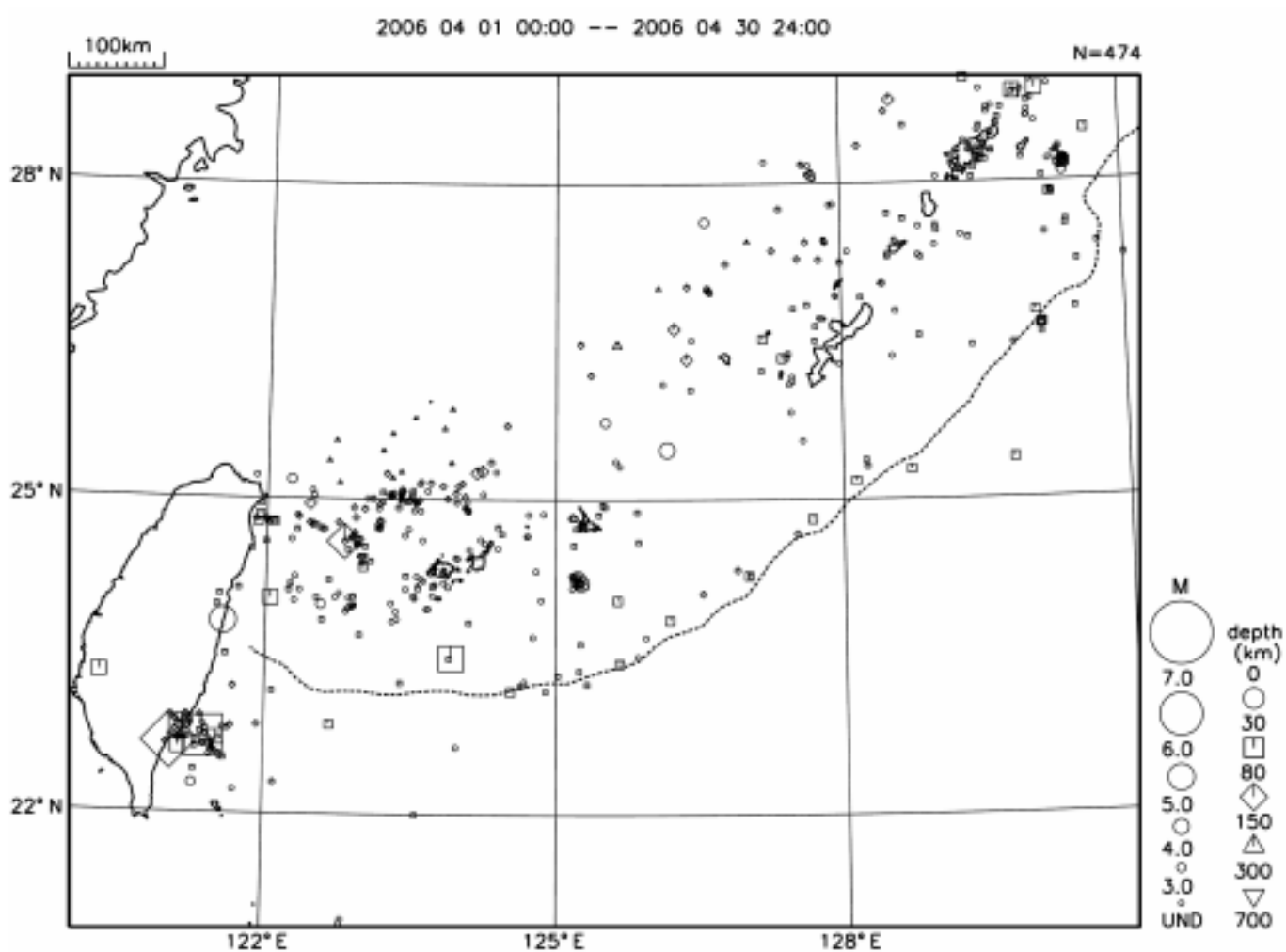
# 九州地方



特に目立った活動はなかった。

[ 上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。 ]

# 沖縄地方



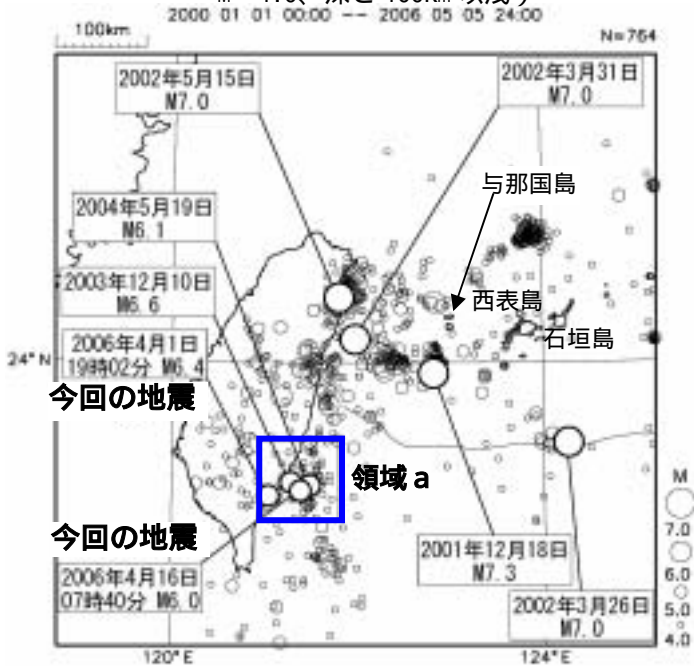
特に目立った活動はなかった。

[ 上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。 ]



## 4月1日、16日 台湾付近の地震

**A** 震央分布図 (2000年1月1日~2006年5月5日、  
M 4.0、深さ100km以浅)



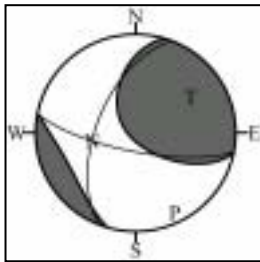
2006年4月1日19時02分に台湾付近でM6.4 (日本国内で震度1以上の観測なし) 16日07時40分にM6.0の地震 (日本国内で最大震度1) が発生した。M6.4の地震の発震機構 (ハーバード大学によるCMT解) は、北北西-南南東方向に圧力軸を持つ型であった。この地震により台湾の台東 (タイトン) で負傷者42名の被害があった (USGSによる)。

今回の地震の震源付近 (領域a) では、2004年5月19日にM6.1の地震が発生するなど、クラスター状の地震活動が見られるところである。 **A**

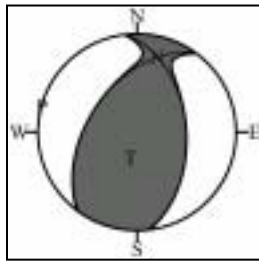


ハーバード大学によるCMT解

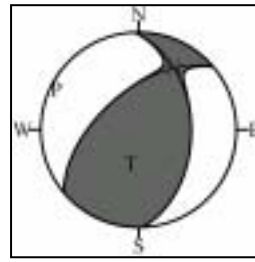
今回の地震 (4月1日)



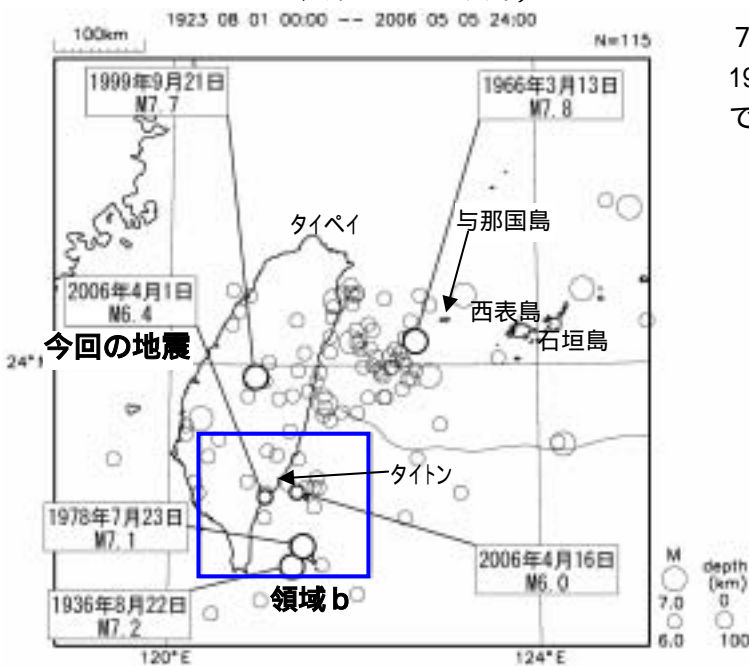
今回の地震 (4月16日)



2004年5月19日の地震

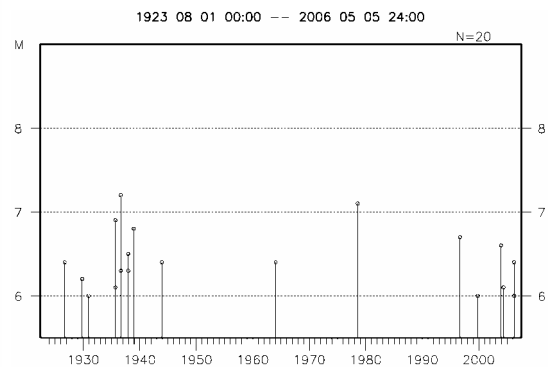


**B** 震央分布図 (1923年8月1日~2006年5月5日、  
M 6.0、深さ100km以浅)



今回の地震の周辺 (領域b) では、M6~7クラスの地震が時折発生している場所で、1978年7月23日のM7.1の地震では石垣島で微弱な津波を観測している。 ( **B** )

領域b内のM-T図 (M 6.0)  
(1923年8月1日~2006年5月5日)



# 東海地震の想定震源域及びその周辺の地震活動

## [概況]

4月17日頃から伊豆半島東方沖で地震が多発しはじめ、4月21日にM5.8の地震が発生した（最大震度4）。4月30日にはM4.5の地震が発生し、最大震度5弱を観測した。

## [地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会検討結果]

4月24日に気象庁において第240回地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会（定例会）を開催し、気象庁は「最近の東海地域とその周辺の地震・地殻活動」として次のコメントを発表した（図2と3）

現在のところ、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。

全般的には顕著な地震活動はありません。浜名湖直下で通常より活動レベルの低い状態が続いていますが、その他の地域では概ね平常レベルです。

東海地域及びその周辺における、プレート境界のゆっくり滑りに起因すると思われる長期的な地殻変動は、最近では停滞しているように見えます。

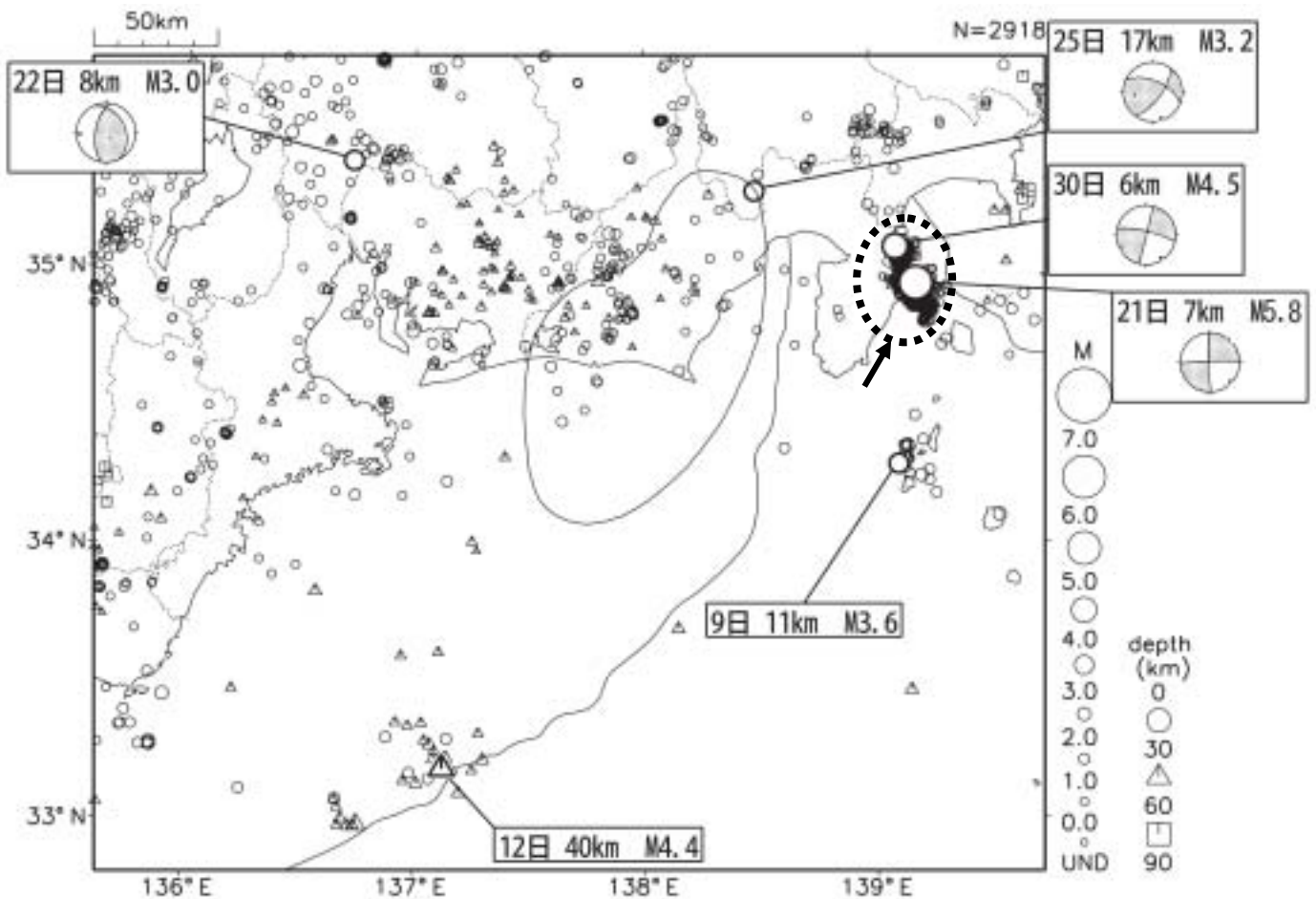


図1 震央分布図 (2006年4月1日～30日: 深さ90km以浅、Mすべて。M3.0以上の地震 (伊豆半島東方沖は最大Mのものと同最大震度5弱のもの、東海道沖はM4.0以上) に「日、深さ、M」を付けた。すぐ下の図はP波初動による発震機構 (下半球投影)。図中のなすび型の領域は東海地震の想定震源域。)

9日05時37分、新島・神津島近海の深さ11kmでM3.6の地震があり、最大震度3を観測した。  
12日09時48分、東海道沖の深さ40kmでM4.4の地震が発生した。  
伊豆半島東方沖 (破線) では4月17日頃から地震が多発しはじめ、21日02時50分に深さ

7kmでM5.8の地震があり、最大震度4を観測した。この地震の発震機構は北東-南西方向に張力軸を持つ横ずれ断層型であった。また30日には、地震が多発している活動域から北北西に約15km離れた場所でM4.5の地震が発生し、最大震度5弱を観測した。この地震

の発震機構は東北東 - 西南西方向に張力軸を持つ横ずれ断層型であった。4月中の M3.0 以上の地震は 23 回であった。地震活動は 5 月 6 日現在、低調な状況である。

22 日 01 時 21 分、岐阜県美濃中西部の深さ 8km で M3.0 の地震があり、最大震度 2 を観測した。発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。陸域の地殻内で発生した地震である。

25 日 12 時 16 分、山梨県中西部の深さ 17km

で M3.2 の地震が発生し、最大震度 2 を観測した。発震機構は北北西 - 南南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型であった。フィリピン海プレートの沈み込みに伴う地震である。

注：本文中の番号は、図 1 中の数字に対応する。

#### [東海地域の地震活動の頁で使われる用語]

##### ・「想定震源域」(図 1)と「固着域」(図 2)

東海地震発生時には、「固着域」(プレート間が強く「くっついている」と考えられている領域)あるいはその周辺の一部からゆっくりしたずれ(前兆すべり)が始まり、最終的には「想定震源域」全体が破壊すると考えられている。

##### ・「クラスタ除去」(図 2, 3)

地震は時間空間的に群(クラスタ: cluster)をなして起きることが多くある。「本震とその後起きる余震」、「群発地震」などが典型的な群(クラスタ)で、余震活動等の影響を取り除いて地震活動全体の推移を見ることを「クラスタ除去」と言う。震央距離が 3 km 以内、発生時間差が 7 日以内の地震をクラスタと見なし、最大地震で代表させている。

##### ・東海地域の地震活動

大規模な地震から国民の生命・財産を保護することを目的として、昭和 53 年(1978 年)12 月に施行された「大規模地震対策特別措置法」では、大規模な地震の発生のおそれがあり、その地震によって大きな被害が予想されるような地域をあらかじめ「地震防災対策強化地域(以下、「強化地域」という。)として指定し、地震予知のための観測施設の整備を強化し、あらかじめ地震防災に関する計画をたてる等、各種の措置を講じることとしている。強化地域は平成 14 年(2002 年)4 月に見直しが行われ、現在、静岡県全域と東京都、神奈川・山梨・長野・岐阜・愛知及び三重の各県にまたがる 174 市町村(平成 18 年 4 月現在)が強化地域に指定されている。強化地域では、マグニチュード 8 クラスと想定されている大地震(東海地震)が起こった場合、震度 6 弱以上(一部地域では震度 5 強程度)になり、沿岸では大津波の来襲が予想されている。気象庁では東海地震の直前の前兆現象を捕らえるため、地震、地殻変動等の観測データを常時監視している。

# 東海地域の地震活動指数

(クラスタを除いた地震回数による)

2006年4月19日 現在

	① 固着域		② 愛知県		③ 浜名湖			④ 駿河湾
	地殻内	フィリピン海プレート	地殻内	フィリピン海プレート	フィリピン海プレート内			全域
					西側	全域	東側	
短期活動指数	4	4	8	2	4	2	2	4
短期地震回数 (平均)	6 (6.18)	6 (5.83)	10 (4.40)	7 (12.65)	2 (2.38)	3 (6.08)	1 (3.70)	6 (6.11)
中期活動指数	6	5	8	1	4	1	0	5
中期地震回数 (平均)	25 (18.53)	21 (17.50)	26 (13.21)	26 (37.95)	4 (4.76)	5 (12.15)	1 (7.39)	14 (12.22)

\* Mしきい値 :

M $\geq$ 1.1 : 固着域、愛知県、浜名湖、M $\geq$ 1.4 : 駿河湾

\* クラスタ除去 :

震央距離が $\Delta r$ 以内、発生時間差が $\Delta t$ 以内の地震をグループ化し、最大地震で代表させる。

$\Delta r=3\text{km}$ 、 $\Delta t=7\text{日}$  : 固着域、愛知県、浜名湖

$\Delta r=10\text{km}$ 、 $\Delta t=10\text{日}$  : 駿河湾

\* 対象期間 :

短期 : 30日間 (固着域、愛知県)、90日間 (浜名湖、駿河湾)

中期 : 90日間 (固着域、愛知県)、180日間 (浜名湖、駿河湾)

\* 基準期間 :

1997年—2001年 (5年間) : 固着域、愛知県、1998年—2000年 (3年間) : 浜名湖

1991年—2000年 (10年間) : 駿河湾

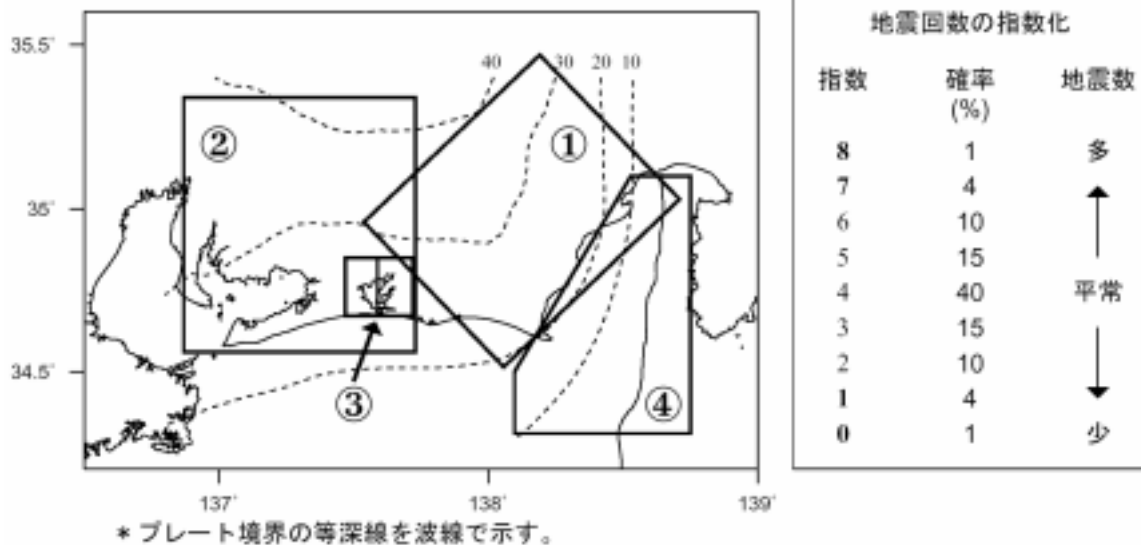


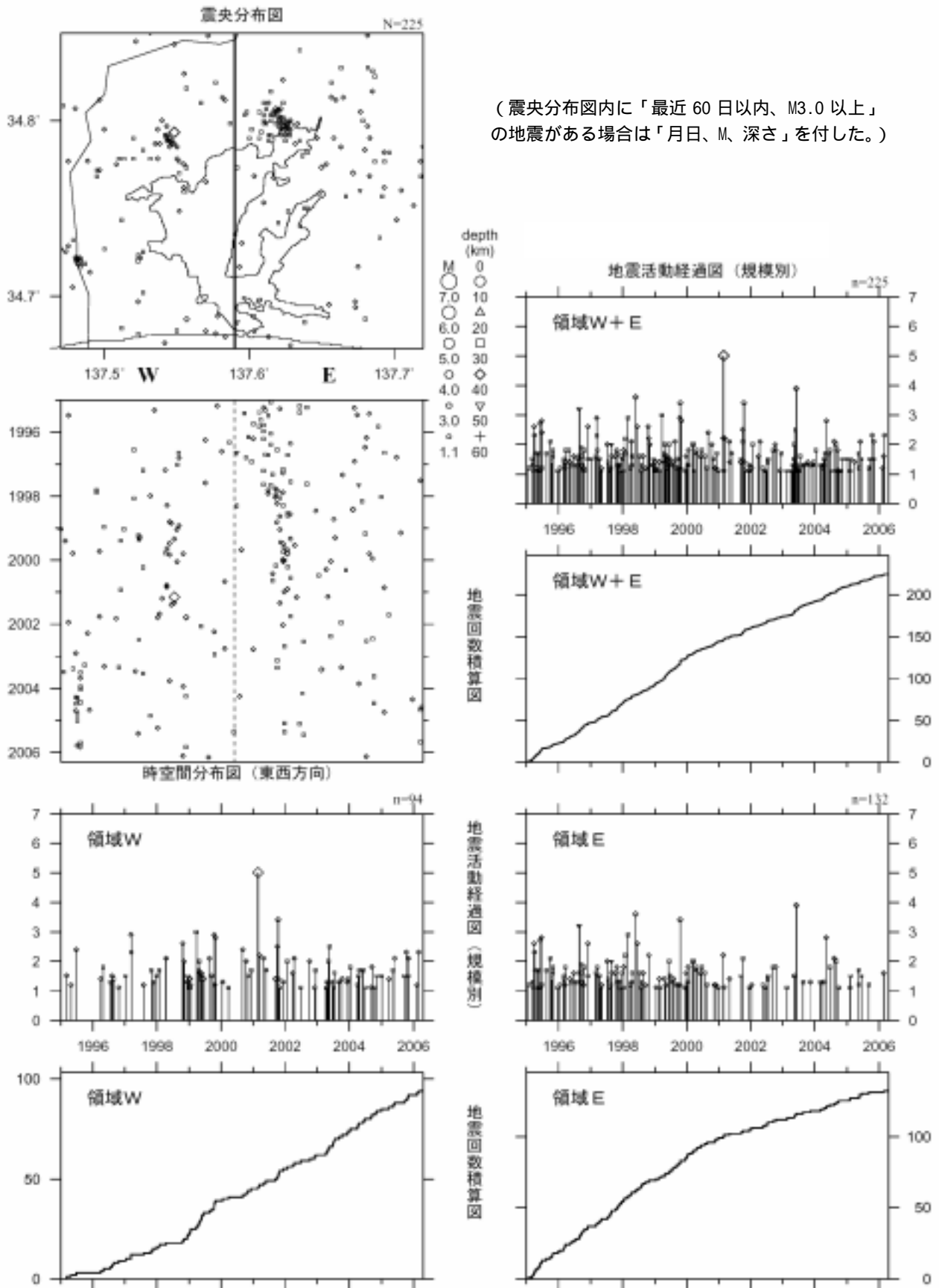
図2 東海地域の地震活動指数

浜名湖全域および東側は、活動指数の低い状態が続いている。愛知県の地殻内は、活動指数が高い。愛知県のフィリピン海プレート内は、活動指数がやや低い。それ以外の地域は平常の活動であった。



# 浜名湖（フィリピン海プレート内）

1995/ 1/ 1~2006/ 4/ 19 M ≥ 1.1 \* クラスタ除去したデータ



(震央分布図内に「最近 60 日以内、M3.0 以上」の地震がある場合は「月日、M、深さ」を付した。)

図3 浜名湖付近のフィリピン海プレート内の地震活動  
領域Eでは2000年終わりごろからの活動の低下が継続している。

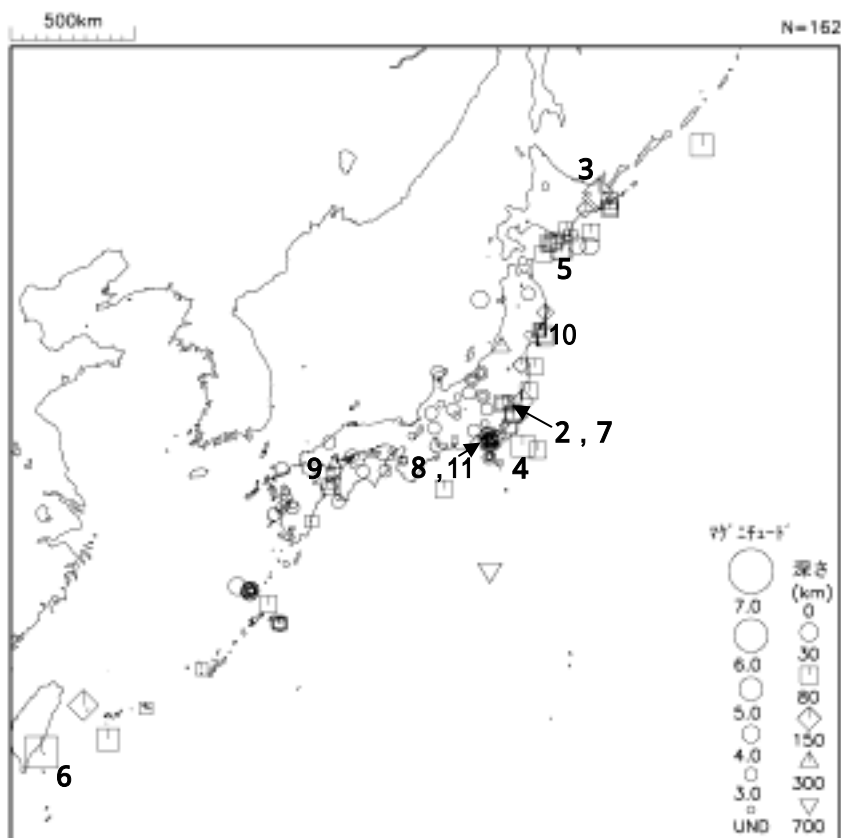


図1 2006年4月に震度1以上を観測した地震  
(図中の番号は、表のNoに対応する地震)

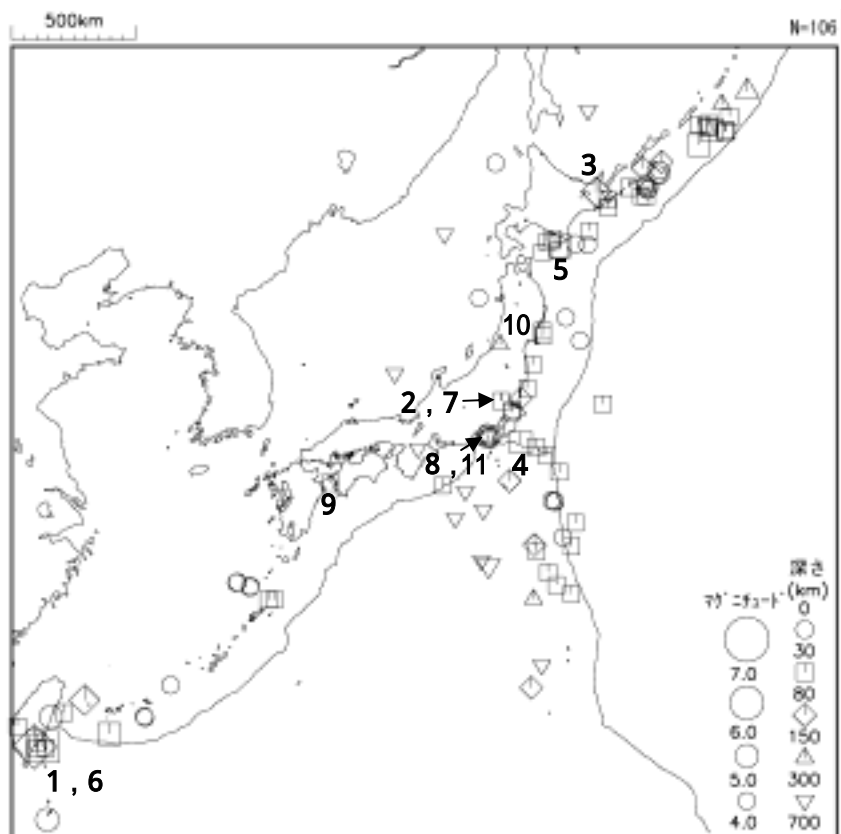


図2 2006年4月に発生したM4.0以上の地震  
(図中の番号は、表のNoに対応する地震)

総数：10,137

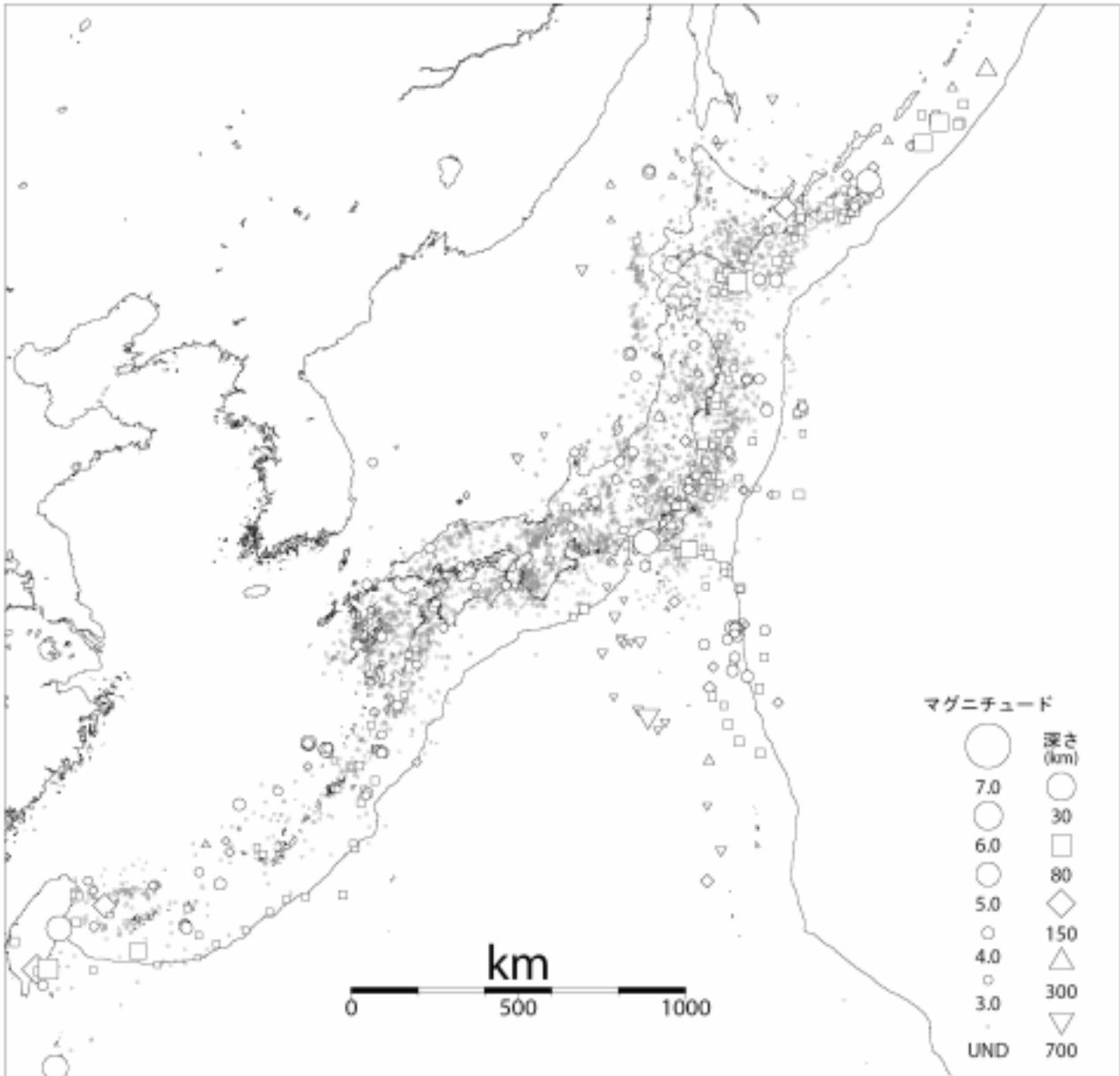


図3 気象庁が震源を決定した日本付近の2006年4月の地震の震央分布  
(M3.0以上の地震については白抜きで示す)

表 1 . 過去 1 年間に震度 1 以上を観測した地震の最大震度別の月別回数  
 <平成 17 年(2005 年) 4 月～平成 18 年(2006 年) 4 月>

	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	計	記事
2006年 4月	89	47	22	3	1					162	30日 伊豆半島東方沖(震度 5 弱)
2006年 3月	66	31	11		1					109	27日 日向灘(震度 5 弱)
2006年 2月	44	30	3	4						81	
2006年 1月	61	20	4	1						86	
2005年12月	58	28	10	3						99	
2005年11月	47	23	8	2						80	
2005年10月	57	24	7	2	1					91	19日 茨城県沖(震度 5 弱)
2005年 9月	59	27	5	1						92	
2005年 8月	89	29	8	1		1	1			129	16日 宮城県沖(震度 6 弱: 1 回、 震度 2: 3 回、震度 1: 11 回) 21日 新潟県中越地方(震度 5 強)
2005年 7月	81	31	11	4		1				128	23日 千葉県北西部(震度 5 強)
2005年 6月	81	44	8	3	2					138	3日 熊本県天草芦北地方(震度 5 弱) 20日 新潟県中越地方(震度 5 弱) 福岡県西方沖の地震の余震 (震度 2: 3 回、震度 1: 14 回)
2005年 5月	82	34	13	5						134	福岡県西方沖の地震の余震 (震度 4: 1 回、震度 2: 7 回、 震度 1: 15 回)
2005年 4月	119	53	13	7		2				194	11日千葉県北東部(震度 5 強) 福岡県西方沖の地震の余震 (震度 5 強: 1 回、 震度 4: 5 回、震度 3: 9 回、 震度 2: 26 回、震度 1: 45 回)
2006年計	260	128	40	8	2					438	(平成 18 年 1 月～平成 18 年 4 月)
過去 1 年計	814	368	110	29	5	2	1			1329	(平成 17 年 5 月～平成 18 年 4 月)

注) 「記事」欄の「\*」は関連の地震で震度 1 以上を観測した地震の回数。「記事」欄には主に震度 5 弱以上を観測した地震、または震度 1 以上を 10 回以上観測した地震活動について記載した。

地方公共団体等の震度計による震度の発表開始年月日。

平成 9(1997)年 11 月 10 日 秋田県、埼玉県、横浜市(神奈川県)、新潟県、愛知県、大阪府、奈良県、和歌山県、岡山県、山口県

平成 10(1998)年 6 月 15 日 群馬県、福井県、静岡県、三重県、島根県、愛媛県

10 月 15 日 青森県、山形県、茨城県、石川県、京都府、兵庫県、鳥取県、広島県、徳島県、熊本県、  
宮崎県、鹿児島県

平成 11(1999)年 7 月 21 日 東京都、長野県

平成 12(2000)年 1 月 12 日 栃木県、千葉県、岐阜県、名古屋市(愛知県)

3 月 28 日 滋賀県

7 月 18 日 富山県、香川県、大分県

平成 13(2001)年 3 月 22 日 佐賀県 5 月 10 日 山梨県、川崎市(神奈川県)

7 月 19 日 高知県 12 月 12 日 福島県

平成 14(2002)年 3 月 20 日 岩手県、宮城県、神奈川県、福岡県、仙台市(宮城県)

7 月 29 日 北海道、長崎県

平成 15(2003)年 3 月 10 日 沖縄県

平成 16(2004)年 5 月 26 日 独立行政法人防災科学技術研究所



表 2 . 日本及びその周辺におけるマグニチュード (M)別の月別地震回数  
 <平成 17 年 (2005 年) 4 月 ~ 平成 18 年 (2006 年) 4 月>

	M3.0 ~ M3.9	M4.0 ~ M4.9	M5.0 ~ M5.9	M6.0 ~ M6.9	M7.0 以上	計 M3.0以上	計 M4.0以上	記事
2006年 4 月	271	91	13	2		377	106	1日:台湾付近(M6.4) 16日:台湾付近(M6.0)
2006年 3 月	285	66	9	1		361	76	28日:東海道沖(M6.0)
2006年 2 月	251	66	6	2		325	74	15日:マリアナ諸島近海(M6.6) 17日:父島近海(M6.0)
2006年 1 月	265	52	5			322	57	
2005年 12 月	363	81	11	3		458	95	2日:宮城県沖(M6.6) 4日:奄美大島近海(M6.1) 奄美大島近海の地震の余震 (M3.0~3.9:45回、M4.0~4.9:7回、 M5.0~5.9:3回) 17日:宮城県沖(M6.1) 三陸沖の地震の余震 (M3.0~3.9:64回、M4.0~4.9:4回)
2005年 11 月	537	93	8	1	1	640	103	15日:三陸沖(M7.2) 三陸沖の地震の余震 (M3.0~3.9:277回、M4.0~4.9:27回) 22日:種子島近海(M6.0)
2005年 10 月	309	67	8	4		388	79	15日:千島列島東方(M6.4) 16日:与那国島近海(M6.5) 19日:茨城県沖(M6.3) 23日:日本海中部(M6.1)
2005年 9 月	294	65	6	2		367	73	6日:台湾付近(M6.0) 21日:国後島付近(M6.0)
2005年 8 月	453	92	10	2	1	558	105	16日:宮城県沖(M7.2) (M3.0~3.9:38回、M4.0~4.9:10回、 M5.0以上は本震の1回) 三陸沖の地震活動 (M3.0~3.9:43回、M4.0~4.9:13回、 M5.0~5.9:2回、M6.0~6.9:2回) 八丈島東方沖の地震活動 (M3.0~3.9:94回、M4.0~4.9:7回、 M5.0~5.9:1回)
2005年 7 月	378	98	15	1		492	114	23日:千葉県北西部(M6.0) 八丈島東方沖の地震活動 (M3.0~3.9:124回、M4.0~4.9:40回、 M5.0~5.9:6回)
2005年 6 月	271	75	9			355	84	
2005年 5 月	271	64	12			347	76	福岡県西方沖の地震の余震 (M3.0~3.9:10回、M5.0~5.9:1回)
2005年 4 月	354	66	7	2		429	75	11日:千葉県北東部(M6.1) 19日:鳥島近海(M6.0) 福岡県西方沖の地震の余震 (M3.0~3.9:38回、M4.0~4.9:8回、 M5.0~5.9:3回)
2006年計	1072	275	33	5		1385	313	(平成18年1月~平成18年4月)
過去1年計	3948	910	112	18	2	4990	1042	(平成17年5月~平成18年4月)

注)日本及びその周辺:原則、北緯20~49度、東経120~153度の範囲。「記事」欄には主にM6.0以上の地震について記載した。

## 世界の主な地震

4月に世界で発生したマグニチュード(M)6.0以上または被害を伴った地震の震央分布を図1に示す。また、その震源要素等を表1に示す。

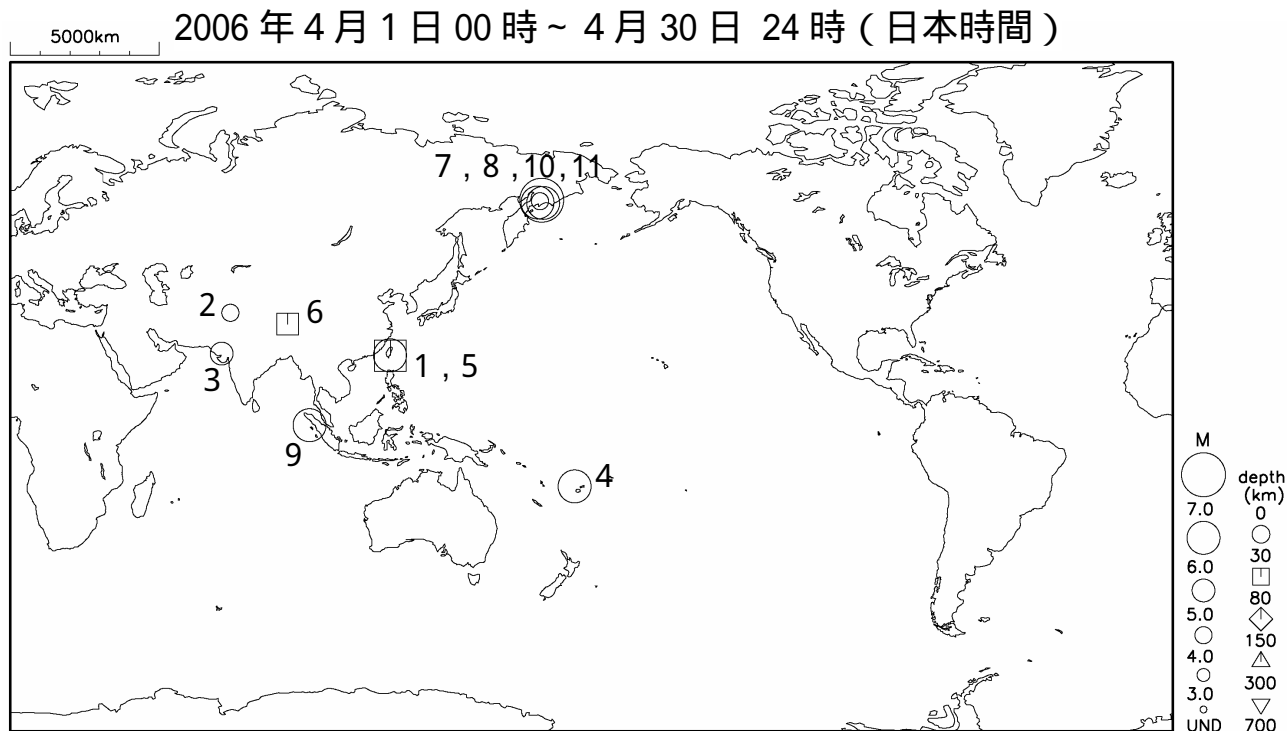


図1 2006年4月に世界で発生したM6.0以上または被害を伴った地震の震央分布  
 <震源要素は米国地質調査所(USGS)発表のQUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による>

\* : 数字は、表1の番号に対応する。

\*\* : マグニチュードはmb(実体波マグニチュード)、Ms(表面波マグニチュード)のいずれか大きい値を用いて表示している。

表1 2006年4月に世界で発生したマグニチュード6.0以上または被害を伴った地震の震源要素等

番号	月日時分	緯度	経度	深さ (km)	mb	Ms	Mw	震央地名	備考 (被害状況など)
1	04月01日19時02分	N22° 40.5'	E121° 02.4'	96	6.0	(6.4)	6.1	台湾付近	負傷者42名、建物被害数棟
2	04月04日18時12分	N34° 39.1'	E 73° 10.6'	10*	4.7			パキスタン	負傷者28名、住家倒壊数棟
3	04月07日02時59分	N23° 17.3'	E 70° 27.1'	10*	5.5	5.2	5.5	インド南部	小被害
4	04月07日17時30分	S16° 32.1'	E176° 59.6'	22	5.9	6.4	6.4	フィジー諸島付近	
5	04月16日07時40分	N22° 43.5'	E 121° 22.9'	75		(6.0)		台湾付近	
6	04月20日06時05分	N31° 36.4'	E 90° 22.2'	35	5.3	5.7		チベット	建物倒壊数棟
7	04月21日08時25分	N61° 04.5'	E167° 05.1'	22*	6.7	7.6	7.3	ロシア,東シベリア	負傷者約40名、建物被害数棟
8	04月21日13時32分	N60° 35.5'	E165° 46.5'	9*	6.2	5.6		ロシア,東シベリア	
9	04月26日03時26分	N 2° 00.3'	E 96° 59.8'	21*	5.8	6.3	6.1	インドネシア,スマトラ北部	
10	04月30日01時58分	N60° 30.4'	E167° 29.5'	11*	6.2	6.0	6.4	ロシア,東シベリア	
11	04月30日16時27分	N60° 50.7'	E166° 34.9'	14	4.3			ロシア,東シベリア	コルフ村の発電所に被害

- ・ 震源要素、被害状況等は米国地質調査所(USGS)発表のQUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による(2006年5月8日現在)。ただし、日本付近で発生した地震については震源要素及びマグニチュード(Msの欄に括弧を付して記載)は気象庁、被害状況は総務省消防庁による。
- ・ 時分は震源時で日本時間[日本時間=協定世界時+9時間]である。
- ・ MwはUSGSのモーメントマグニチュードである。
- ・ 震源の深さに「\*」が付いているのは、USGSが推定した深さである。

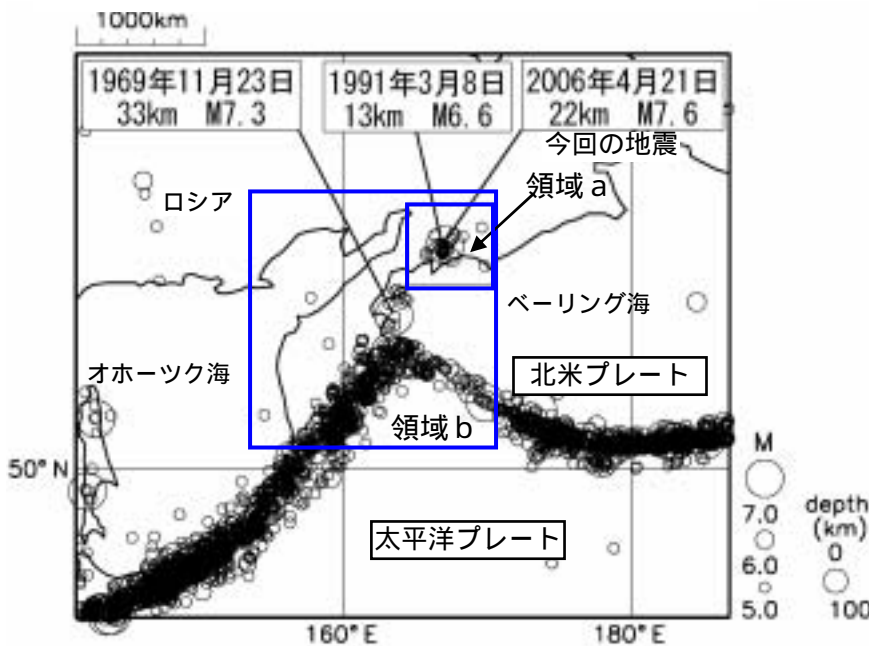
# 4月21日 東シベリア（カムチャツカ付近）の地震

2006年4月21日08時25分ころ（日本時間）にロシアのカムチャツカ付近の深さ約20kmでマグニチュード（米国地質調査所[以下、USGS]によるマグニチュード）7.6の地震が発生した。この地震により、コリヤーク自治管区のアプカなどで負傷者約40人などの被害を生じた。地震活動は本震 - 余震型で推移し、30日01時58分にM6.0の最大余震（5月5日現在）が発生したものの順調に減衰している。

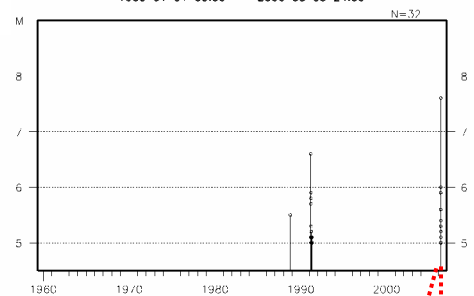
今回の地震は北米プレート内部で発生した。1960年以降、この付近では1991年3月8日にM6.6の地震が発生しているが、M7を超える地震は今回の地震の南西約600kmに離れた場所で1969年11月23日にM7.3が発生しているのみである。発震機構（ハーバード大学によるCMT解）は、北西 - 南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。

なお、この地震について気象庁は08時52分に「この地震による日本への津波の心配はありません」の遠地地震情報（国内向け）を発表した。

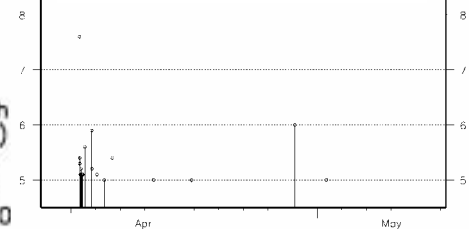
震央分布図（1960年1月1日～2006年5月5日：M 5.0、深さ100km以浅） 震源データはUSGSによる。



領域a内のM - T図 (1960年1月1日～)

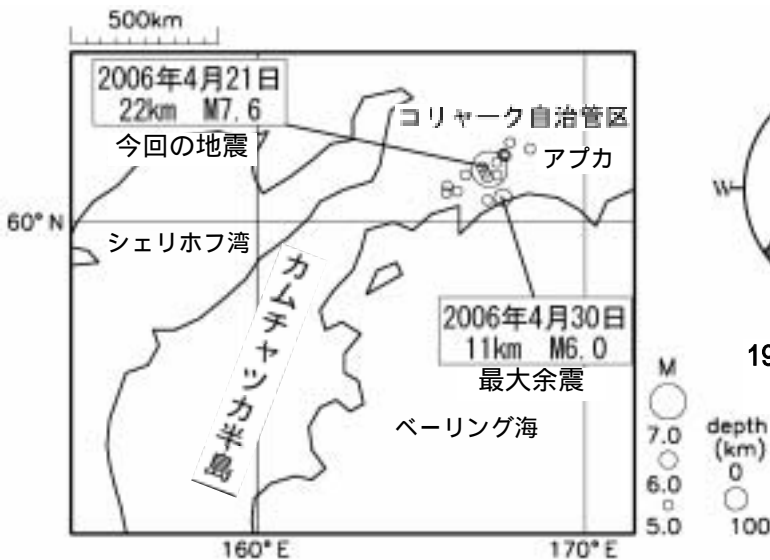


(2006年4月21日～)

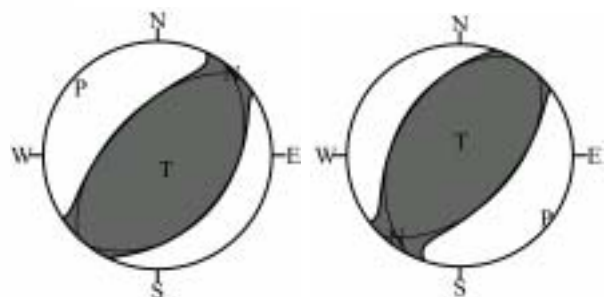


領域bの拡大図

(2006年4月21日～5月5日：M 5.0、深さ100km以浅) 震源データはUSGSによる。 は主な都市を示す。



今回の地震の発震機構 (ハーバード大学によるCMT解)



1991年3月8日 M6.6の地震

今回の地震

## 平成 18 年 4 月の主な火山活動

## 記事を掲載した火山



注1 本資料で示すレベルは、火山活動度レベルを導入した火山におけるレベルである。

## 注2 記号の意味

- : 噴火した火山
  - : 活動が活発もしくはやや活発な状態にあった火山
  - : その他記事を掲載した火山
- 等丸付き数字: 火山活動度レベル

注3 火山名に下線を引いた火山について、説明資料（火山活動解説資料）を配布。

## 【噴火した火山】

桜島 [比較的静穏な噴火活動（レベル2）]

19日に爆発的噴火が発生したほか、小規模な噴火等も発生したが、桜島としては比較的静穏な噴火活動が続いている。GPSによる地殻変動観測では長期的な東西方向のわずかな伸びが続いている。

諏訪之瀬島 [活発な状況（レベル3）]

今期間、爆発的噴火は観測されなかった。火山性地震は少ない状態で経過しているが、4日から19日と26日から29日にかけて火山性連続微動を観測し、小規模な噴火が時々発生した。噴煙の最高高度は火口縁上800mであった。十島村役場諏訪之瀬島出張所によれば、27日に御岳の南南西約4kmにある集落で降灰があった。

## 【活動が活発もしくはやや活発な状態であった火山】

雌阿寒岳 [活発な状況]

ポンマチネシリ山頂の赤沼火口や北西側斜面での噴煙活動は噴火直後に比べ低下傾向にあるものの、依然として活発な噴煙活動が続いており、噴煙の高さは火口縁上概ね200mで推移した。地震活動は低調な状態が続いており、火山性微動は観測されなかった。GPSによる地殻変動観測では、特段の変化は観測されなかった。

十勝岳 [やや活発な状況]

62-2火口は噴煙活動が活発で、高温の状態が続いていると推定される。

樽前山 [やや活発な状況]

A火口及びB噴気孔群の高温状態が続いていると推定される。

浅間山 [やや活発な状況（レベル2）]



火山性地震および微動の発生回数ならびに火山ガスの放出量がやや多い状態が続いている。山頂火口内は高温状態が続いている。

#### **三宅島** 【やや活発な状況】

山頂火口の噴煙活動は引き続き活発で、二酸化硫黄の放出量も1日あたり概ね2千～5千トンの範囲で推移しており、依然として多い状態が続いている。

#### **福徳岡ノ場** 【やや活発な状況】

海上自衛隊が7日に、また、海上保安庁が25日および26日に上空から行った観測で、火山活動によるとみられる変色水が確認された。

#### **阿蘇山** 【やや活発な状況（レベル2）】

中岳第一火口の熱活動はやや活発な状態となっている。中岳第一火口の湯だまりの量は約8割、表面温度は70前後で推移しており、小規模な土砂噴出も観測した。

#### **霧島山（新燃岳）** 【やや活発な状況（レベル2）】

火山性地震は消長を繰り返しながら、次第に少なくなっている。

#### **霧島山（御鉢）** 【やや活発な状況（レベル2）】

2日と23日に継続時間が短く、振幅の小さな火山性微動を観測した。

#### **薩摩硫黄島** 【やや活発な状況（レベル2）】

噴煙活動はやや活発な状態が続いている。

#### **口永良部島** 【やや活発な状況（レベル2）】

火山性地震はやや多い状態が続いている。

### **【静穏な状況であったが、観測データに変化がみられた火山】**

#### **伊豆東部火山群**

17日から地震が一時的に増加し、地震の活動域周辺では地殻変動も観測された。地震活動は24日以降低調な状態となった。同様の活動は過去にもしばしばみられており、噴火に結びつくような低周波地震や火山性微動は観測されておらず、火山活動には特段の変化はみられていない。

### **【その他の静穏な状況であった火山】**

#### **（北海道地方）**

倶多楽、有珠山、北海道駒ヶ岳、恵山

#### **（東北地方）**

岩手山、秋田駒ヶ岳、吾妻山（レベル1）、安達太良山、磐梯山

#### **（関東・中部地方及び伊豆・小笠原諸島）**

那須岳、草津白根山（レベル1）、新潟焼山、御嶽山、白山、富士山、伊豆大島（レベル1）  
八丈島

#### **（九州地方）**

九重山（レベル1）、雲仙岳（レベル1）

#### **（沖縄地方）**

硫黄島

過去1年間の火山活動の状況

火 山 名		平成18年											
		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
雌阿寒岳	活動												
十勝岳	活動												
樽前山	活動												
吾妻山	活動 レベル												
草津白根山	活動 レベル												
浅間山	活動 レベル												
伊豆大島	活動 レベル												
三宅島	活動												
福德岡ノ場	活動												
九重山	活動 レベル												
阿蘇山	活動 レベル												
雲仙岳	活動 レベル												
霧島山(新燃岳)	活動 レベル												
霧島山(御鉢)	活動 レベル												
桜島	活動 レベル												
薩摩硫黄島	活動 レベル												
口永良部島	活動 レベル												
諏訪之瀬島	活動 レベル												

活動状況(活動)

- : 噴火した火山
- : 活動が活発もしくはやや活発な状態であった火山

火山活動度レベル

- : 小規模な噴火が発生かその可能性  
(吾妻山、草津白根山、浅間山、雲仙岳では「小~中規模噴火が発生かその可能性」)
- : やや活発な火山活動  
(桜島については、「比較的静穏な噴火活動」)
- : 静穏な火山活動

平成 18 年 4 月の火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
雌阿寒岳	火山観測情報第 21 号	3 日 16:30	活発な火山活動が継続。31 日～3 日 15 時の活動状況(噴火はなし)。
	火山観測情報第 22 号	7 日 16:30	活発な火山活動が継続。3 日～7 日(15 時)の活動状況(噴火はなし)。北西側斜面の噴気孔群から約 150 m 下方でもごく弱い噴気を観測。
	火山観測情報第 23 号	10 日 16:30	活発な火山活動が継続。7 日～10 日 15 時の活動状況(噴火はなし)。
	火山観測情報第 24 号	17 日 16:30	活発な火山活動が継続。8 日～17 日(15 時)の活動状況(噴火はなし)。10 日から 12 日に行った山麓からの観測結果および 11 日に北海道大学が行った上空からの観測結果。
	火山観測情報第 25 号	24 日 16:30	活発な火山活動が継続。17 日～24 日(15 時)の活動状況(噴火はなし)。
浅間山	火山観測情報第 14 号	7 日 16:00	3 月 31 日～4 月 7 日 15 時の活動状況。4 月 7 日に実施した火山ガス観測の結果。レベルは 2。
	火山観測情報第 15 号	14 日 16:00	7 日～14 日 15 時の活動状況。レベルは 2。
	火山観測情報第 16 号	21 日 16:00	14 日～21 日 15 時の活動状況。18 日に行った火山ガス観測結果。レベルは 2。
	火山観測情報第 17 号	28 日 16:00	21 日～28 日 15 時の活動状況。26 日に行った火山ガス観測および上空からの火口観測結果。レベルは 2。
三宅島	火山観測情報 第 91～120 号 (1 日 1 回発表)	1 日～30 日 16:30	最近の火山活動評価、前日 16 時～当日 16 時の活動状況及び上空の風の予想。

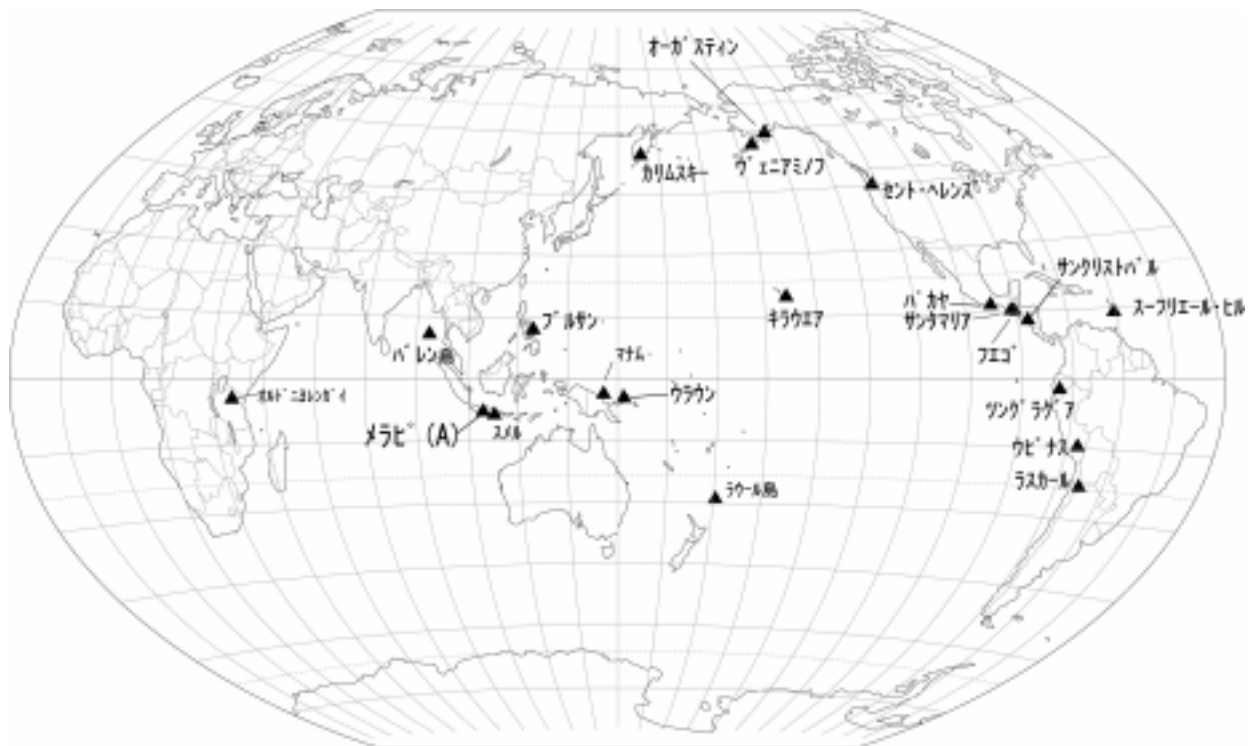
## 世界の主な火山活動

平成 18 年（2006 年）4 月に噴火の報告された主な火山（日本を除く）は下図のとおりである。  
このうち、顕著な活動が見られた主な火山は以下のとおりである。

### メラピ火山（ジャワ島 インドネシア）（図中A）

4 月 10 日頃から地震活動や噴煙活動が活発化し、低周波地震や、地滑りや溶岩流の崩落による震動も観測された。27 日には、山頂から約 5 km 離れた集落で少量の降灰が確認されたほか、28 日には、溶岩流がメラピ火山から南西方向へ 1.5km 流下しているのが観測された。

（以上、米国スミソニアン自然史博物館の GVP（Global Volcanism Program）による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。）



平成 18 年 4 月に噴火の報告された主な火山（日本を除く）